湖南中部流域下水道関連遺跡
発掘調査報告書（虫生工区）

—木部天神前遺跡—

1979

滋賀県教育委員会
滋賀県文化財保護協会

序

わたしたちの祖先が守ってきた、美しい琵琶湖が、70年代の急速な開発の波にあらわれて、「死の湖」に近づきつつあるとの認識が、ようやく普遍化するなかで、「富栄養化防止条例」をはじめとする行政的な対応もしだいに具体化しつつあることは、まことに喜ばしいことである。そして、琵琶湖浄化のカギを握る下水道事業も、近年来、本格的にとりくまれ各地で工事がすすめられている。これに伴ない、永年地下に埋れていた遺跡のいくつかが、その工事の対象となり、これまでたびたび事前調査を実施してきた。本書もその調査の成果の一部をなすものであり、これが大いに活用されることを望むとともに、調査に協力を惜まれなかった関係者各位にお礼を申し述べたい。

滋賀県教育委員会

文化財保護課長　沢　　悠　　光

例　　言

1. 本書は、昭和53年11月１日から昭和54年３月31日まで実施した、野洲郡中主町木部所在、木部天神前遺跡についての発掘調査の記録を収めたものである。

2. 本調査は、滋賀県土木部下水道建設課の依頼にもとずき、滋賀県教育委員会が、財団法人滋賀県文化財保護協会の協力を得て実施した。

3. 現地調査および報告書の作成には、滋賀県教育委員会事務局文化部文化財保護課技師大橋信弥が担当し指導した。

4. 調査・整理には、水野敏昭、中西和多隆、谷口孝司、大橋美和子、玉村光、南部慶子、川那辺法子、竹内義明の諸君が参加した。

5. 本書の執筆は、主として大橋があたり、遺物写真の撮影には、寿福滋氏を煩した。記して謝意を表したい。

湖南中部流域下水道関連遺跡
発堀調査報告書（虫生工区）
—木部天神前遺跡—

目　　次

序

例言

Ⅰ　はじめに …… 1

Ⅱ　調査の経過 …… 1

Ⅲ　遺構

(1)　井戸 …… 3

(2)　土坑 …… 5

(3)　溝 …… 5

(4)　ピット …… 6

Ⅳ　遺物

(1)　須恵器 …… 6

(2)　土師器 …… 7

(3)　黒色土器 …… 7

(4)　その他 …… 7

Ⅴ　むすび …… 7

付篇　周辺地域の出土遺物 …… 8

出土遺物観察表 …… 10

図　版　目　次

PL 1　遺　構　1. 調査区全景（北より）　2. 調査区全景（南より）

PL 2　遺　構　1. 調査区近景（東より）　2. 調査区近景（東より）

PL 3　遺　構　1. 調査区南半部近景（北より）　2. 調査区北半部近景（南より）

PL 4　遺　構　1. ＳＥ1、ＳＤ1、ＳＫ2、ＳＫ3 近景（南より）　2. ＳＤ2 遺物出土状況

PL 5　遺　物　須恵器（C 003 ～ C 041 ）

PL 6　遺　物　須恵器（C 030 ～ C 034 ）　土師器（H 050 ～ H 092 ）　黒色土器（B 093）

PL 7　遺　物　1. 須恵器（C 001 ～ C 016 ）　2. 須恵器（C 017 ～ C 031 ）

PL 8　遺　物　1. 須恵器（C 035 ～ C 044 ）　2. 須恵器（C 045 ～ C 049 ）

PL 9　遺　物　1. 土師器（H 064 ～ H 075 ）　2. 土師器（H 063 ～ H 084 ）

PL 10　遺　物　1. 土師器（H 052 ～ H 091 ）　2. 土師器・黒色土器（H 056 ～ B 098 ）

PL 11　遺　物　1. 黒色土器（B 099 ～ B 110 ）　2. 黒色土器・土師器（B 111～ H 119 ）

PL 12　遺　物　1. 周辺地域出土土器（E 120 ～ B 128 ）　2. 周辺地域出土土器（B 129 ～C 135）

PL 13　遺構全図（折込）

PL 14　ＳＥ1・ＳＥ2、平面・断面実測図

PL 15　天神前遺跡出土土器実測図　（C 001 ～ C 026 ）

PL 16　天神前遺跡出土土器実測図　（C 027 ～ C 043 ）

PL 17　天神前遺跡出土土器実測図　（C 044 ～ H 056 ）

PL 18　天神前遺跡出土土器実測図　（C 057 ～ H 077 ）

PL 19　天神前遺跡出土土器実測図　（C 078 ～ H 119 ）

PL 20　周辺地域出土土器実測図　（E 120 ～ C 135 ）

挿　図　目　次

第 1 図　位置図 …… 1

第 2 図　遺跡周辺地形図 …… 2

第 3 図　調査区配置図 …… 3

第 4 図　遺構配置図 …… 4

第 5 図　ＳＫ 2、ＳＫ 3、平面・断面実測図 …… 5

第 6 図　周辺地域出土位置図 …… 8

第 7 図　周辺地域出土土器 …… 9

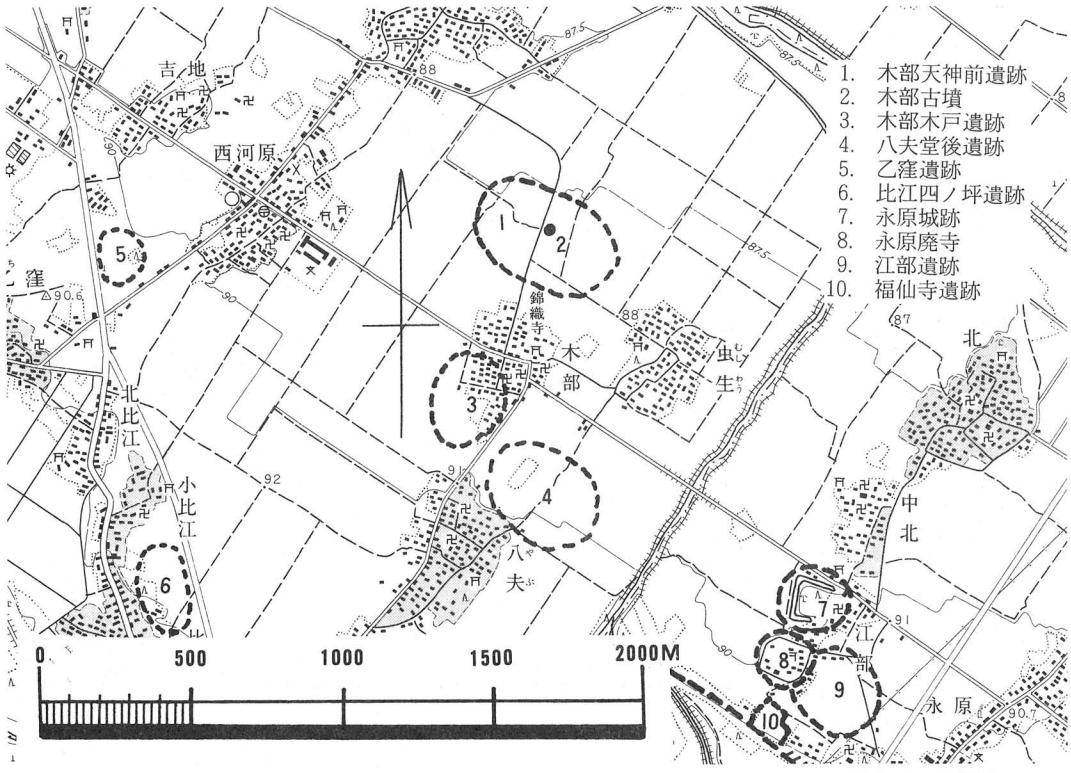
I はじめに

本調査は、滋賀県土木部下水道建設課が、計画・実施する、湖南中部流域下水道中主町虫生工区立坑掘削工事に先立って実施した、埋蔵文化財発掘調査である。

従来、当地域においては、中主町唯一の首長墓とみられる、「木部古墳」の存在が知られるのみであったが、近年付近で「ほ場整備事業」が実施された際、数ケ所で遺物の出土が報告されており、今回工事着工(注1)に先立って、確認調査を実施したところ、遺物の散布が顕著であることが判明、事前調査(注2)を実施することとした。ただ、遺跡の発見がおくれたこともあり、工事用道路建設が先行したため、管理用道路部分については、本格的な道路建設が着工される段階に実施することとし、当面堀削、破壊の明白な、下水道本管貫入用立坑の部分について、試掘調査を実施したところ、多数の遺物を包含する層が検出されたため、引きつづいて、完全調査を実施することとした。

II 調査の経過

現地調査は、昭和53年11月1日から11月8日の約一週間を要して実施し、昭和54年3月31日まで整理を行なった。調査にあたっては、鉄板をはかせたバックボウで、耕土・床土等を排除し、遺物包含層の上面まで掘り下げた。この面で、暗紫色砂泥を埋め土とするピットが若干検出され



第1図 位置図

第２図　遺跡周辺地形図

たため、これの掘り下げ、記録後、人力により包含層を除去した。包含層除去後、精査したところ、井戸状遺構２基、溝４条、土拡４基、ピット多数が検出された。ピットのうちいくつかは、上層において検出できなかったものを含み、下層遺構の埋め土、暗褐色粘質土と、明らかに異なっていた。検出後、順次堀り下げたが、涌水が激しく、困難をきわめた。堀り下げ完了後、写真撮影・実測を行ない、調査を完了、再びバックボウを投入して、下層遺構の有無を確認したが、明確な遺構の検出はなく、調査を完了した。

Ⅲ　遺　　構

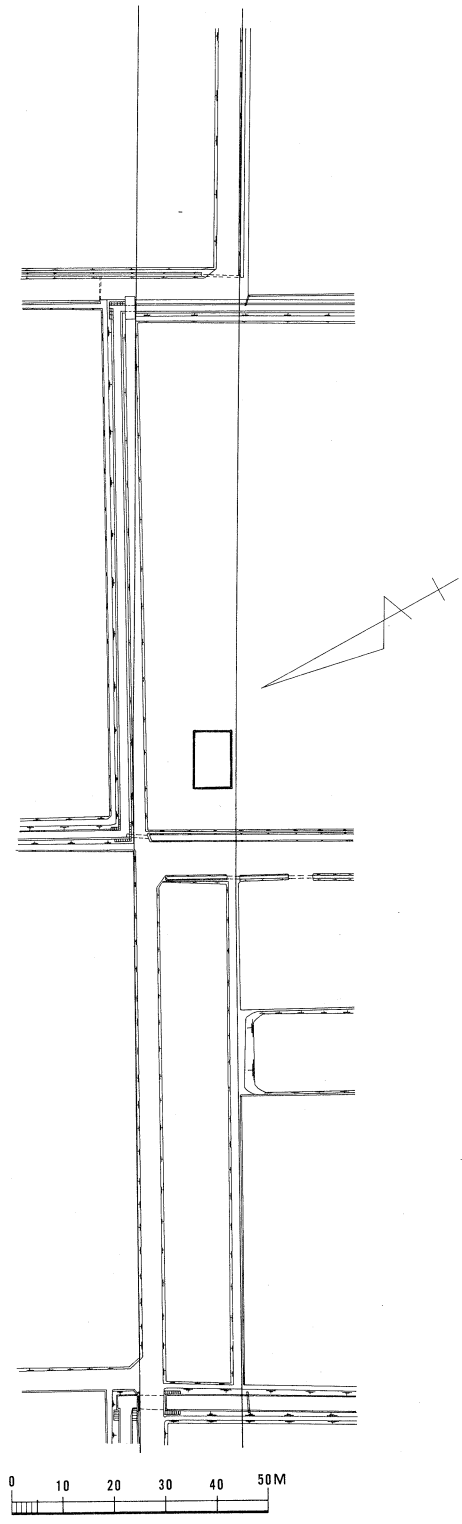
検出した遺構は、上述のとおり、井戸２基、土坑４基、溝４条、ピット多数であった。このうち、若干のピットおよび、ＳＥ２が包含層上面から堀り込れており、やや後出するものと考えられる。

(1)　井戸

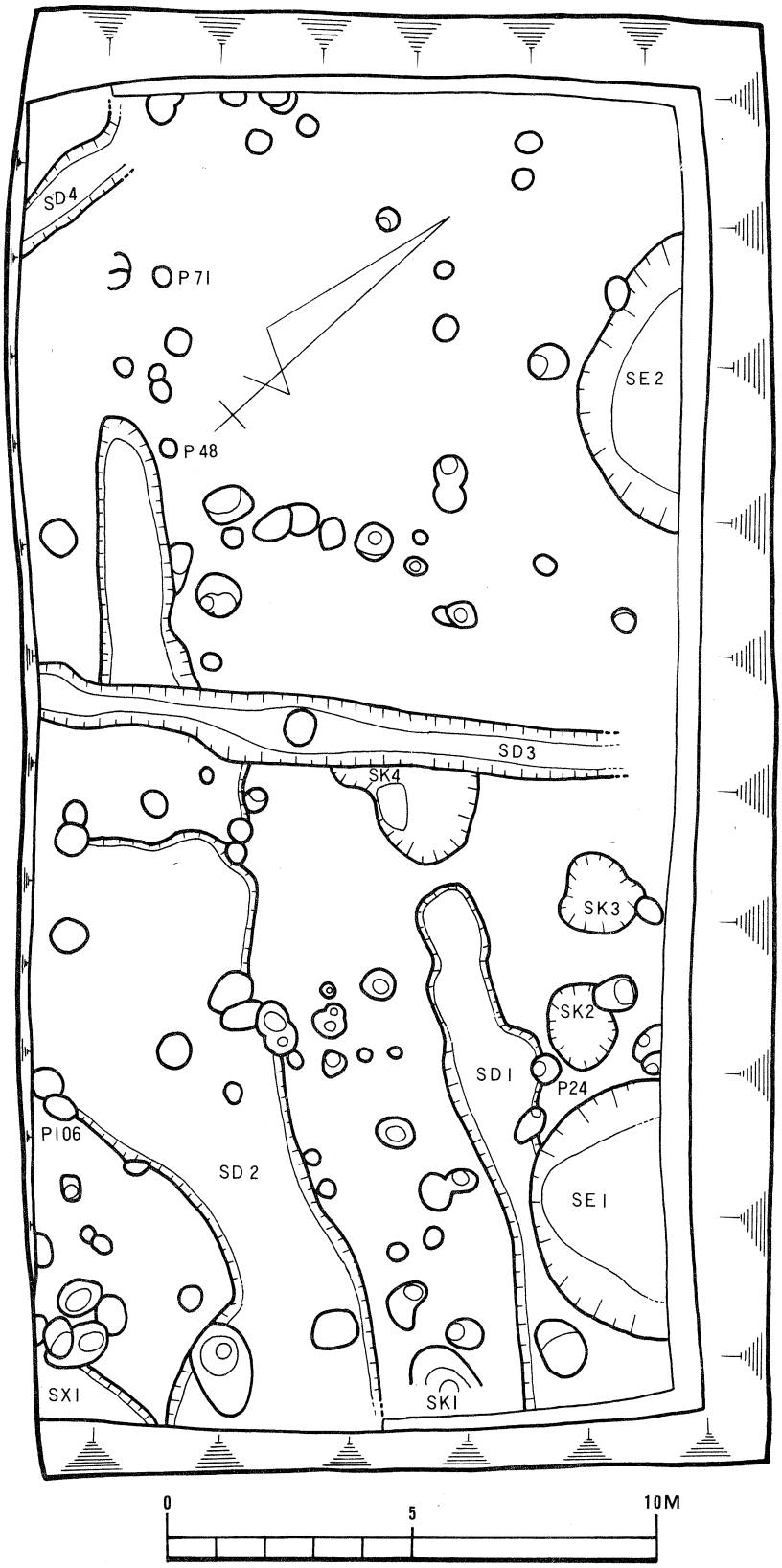
調査区の東壁に接して、井戸２基がその半ばを露見した。北側のものをＳＥ２、南側をＳＥ１とした。

ＳＥ１　直径2.6ｍ、深さ0.8ｍをはかる円形素掘りの井戸である。地山Ⅰの淡青灰色砂質粘土より掘り込んで、地山Ⅲの灰青色砂質土を底部とする。埋め土は、およそ５層に分かれ第①層茶褐色粘質砂土、第②層暗茶褐色粘質土、第③層黒灰色粘質砂土、第④層暗青灰色砂質土、第⑤層暗黒灰色粘質土である。このうち第②・③層に若干の遺物が含まれていた。後述するように、これらの遺物は、およそ８世紀後半代のものであり、そのころに埋没したことがうかがえる。

ＳＥ２　直径3.4ｍ、深さ1.0ｍの円形素掘



第３図　調査区配置図


SD4
P71
P48
SE2
SD3
SK4
SK3
SK2
SD1
P24
P106
SD2
SE1
SX1
SK1
0
5
10M

第4図　遺構配置図

りの井戸と考えられる。耕土・床土直下の包含層上面から切り込み、地山Ⅲを底部とする。埋め土は、調査中の崩壊が激しく、図示に到らなかったが、およそ３層に分かれ、第①層茶褐色粘質砂土、第②層暗青灰色砂質土、第③層暗黒灰色粘質土であった。第③層から、遺物が若干出土しており、おおよそ12世紀代の所産と考えられる。

(2) 土坑

調査区の南よりで、小規模な土坑４基を検出した。南からＳＫ１～ＳＫ４とし、埋め土、遺物に類似が多く、同時期、およそ７世紀後半代の所産と考えられる。

ＳＫ１ 調査区の南端で検出した径0.8ｍの不整隋円形の土坑、深さは0.5ｍと浅い。埋め土は、①黒灰色粘質砂土 ②暗茶褐色粘質砂土 ③暗黒灰色粘質土のおよそ３層に分かれ、第③層に若干の土器片があるほか、性格は不明。

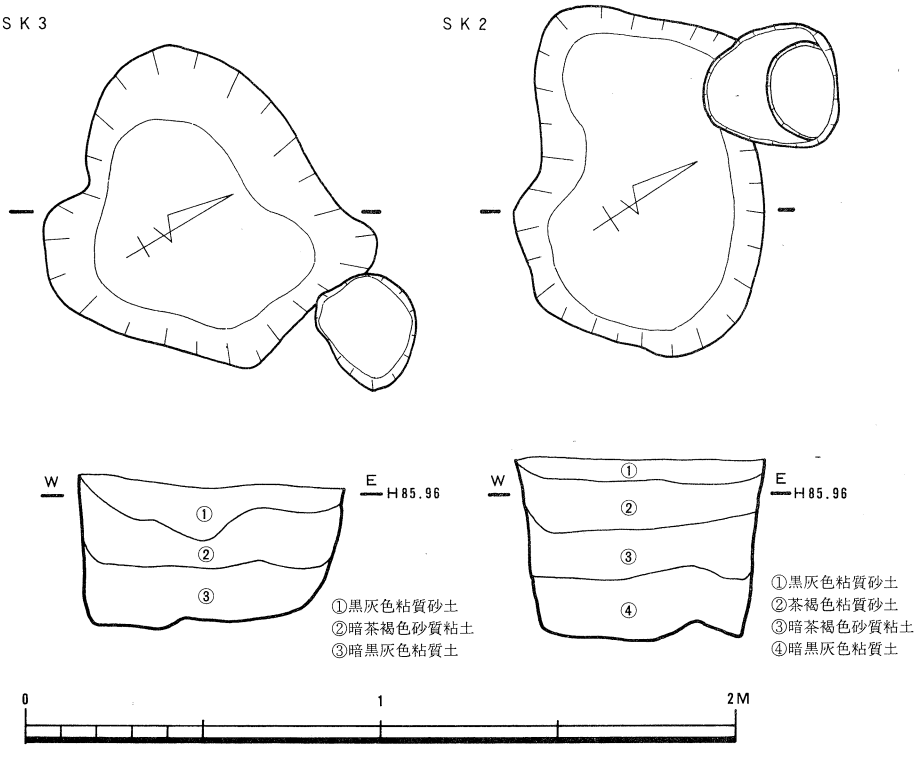
ＳＫ２ ＳＥ１の北に接して所在する、長辺1.0ｍ、短辺0.7ｍ、深さ0.5ｍの隋円形の土坑である。埋め土はＳＫ１と同様で、出土遺物は、ほとんどなかった。

ＳＫ３ ＳＫ２の北に接して所在する、長辺0.9ｍ、短辺0.95ｍ、深さ0.4ｍの不整円形の土坑である。埋め土は、ＳＫ１・ＳＫ２と同様で、第②層の暗茶褐色粘質土から若干の土器片が出土している。

ＳＫ４ ＳＤ３に切られ、南に接して所在する推定長辺1.3ｍ、短辺1.1ｍ、深さ0.4ｍをはかる不整円形の土坑である。SK1~SK3と同様の埋め土で、第②層に若干の須恵器を含んでいた。

(3) 溝

浅い溝状の遺構４条が検出されている。いづれも包含層と同じ埋め土で、一部は地形の凹凸を



第５図 ＳＫ３，ＳＫ２平面・断面実測図

示すものかも知れない。

ＳＤ１　調査区の南から北に流れる。幅0.7ｍ、深さ0.2ｍの小溝で、中央付近で消滅している。ほぼ暗灰褐色を呈する砂質粘土の１層よりなる。遺物はあまり多くなかった。

ＳＤ２　調査区の西側を斜めに南北流する幅３ｍ以上、深さ0.3ｍの溝状遺構、埋め土除去後ピット多数を検出しており、浅い落ち込みの可能性が強い。多くの遺物が出土している。

ＳＤ３　調査区のほぼ中央を東西流する皿状の底をもつ溝、幅0.7ｍ、深さ0.4ｍをはかりＳＤ２を切り込んでいる。若干の土器類が出土した。

ＳＤ４　調査区の北側を南西から北東へ流れる小さな溝、幅0.5ｍ、深さ0.3ｍをはかり、ＳＤ２に切られている。遺物はほとんどなかった。

(4)　ピット

全域で多数のピットを検出した。いづれも建物に伴う柱穴の可能性が強いが、まとまるものはなかった。ほとんどが明確な堀り方を持っておらず、円形素掘りの柱穴であった。なかに柱痕を残すものもあり、上述のとおり暗紫色砂泥を充填するもの（包含層上面より切り込む）と、暗茶褐色砂質粘土を充填するものがあり、時期差を示している。

Ⅳ　遺　　物

出土遺物は、須恵器、土師器、黒色土器で、大部分が包含層より出土したものである。須恵器は、７～８世紀のものが中心で、土師器、黒色土器は12世紀代のものである。

(1)　須恵器

須恵器には、坏蓋、坏身、瓶、壷、甕、高坏などがある。

坏蓋　坏蓋は、宝殊形のツマミの有無によって、大きくＡ、Ｂの２種に分けられるが、宝殊形のツマミを有するＢは、口縁端部の形態により、Ｂ－Ⅰ～Ｂ－Ⅲの三種に細分される。Ａは陶邑ＴＫ２０９・２１７（Ⅱ－６）に、Ｂも同ＭＴ２１・ＴＫ７（Ⅳ－１・２）に類似が認められる。

坏身　丸底で立上りを有するものをＡ、平底のものをＢ、高台を有するものをＣとした。(注３)そしてＡは、大小および立上りの形態により、Ⅰ～Ⅲに細分され、Ｂも底部の形態により、Ⅰ～Ⅲに細分される。ＡはＴＫ２１７（Ⅱ－５・６）に、ＢはＴＫ217（Ⅲ－１・２）に、ＣはＴＫ７(Ⅳ－２・３）に、それぞれ類似品があり、およそ７～８世紀の所産と考えられる。

高坏　坏部口縁の立ち上りが低く、(注４)細い脚部に、２段の透しを有するものが１点出土した。陶邑ＴＫ２０９（Ⅱ―5）に類似品のあるものである。およそ７世紀前半代のものであろう。

瓶　ＳＤ２より、細長い頸部にラッパ状に開く口縁を有し、隋円形の体部を有するものが(注５)１点出土した。陶邑ＴＫ217（Ⅲ－１）に類品がみとめられる。

壷　口縁部が短かく外湾する小型壷と、底部破片を(注６)図示した。陶邑ＭＴ21(Ⅳ―1)に類品のあるものである。

甕　(注７)口縁の形態などからＡ～Ｃの三種に分類され、Ａは、ゆるやかに外反する頸部に、口縁端部を外側に折り曲げたもの、Ｂは、ゆるやかに内湾し、頸部は「く」字に屈曲する。Ｃは、外湾

して短かくのびる口縁端部を、やや上下に肥厚させたもの、ほかに底部破片が若干であった。陶邑ＴＫ２１７（Ⅱ－６・Ⅲ－２）に類品がある。(注８)

(2) 土師器

土師器には、奈良時代に属すると思われる坏、皿、甕、高坏、壷、甕などと、鎌倉時代に属すると考えられる皿がみられる。

坏 平底の底部に外傾して立ち上がる口縁がつく。口縁部は屈曲し、端部を内側に巻き込む。内外面ナデ調整。

皿 皿には、扁平なＡとやや深いＢとがあり、Ａには、口径の大小により、Ａ－Ⅰ、Ａ－Ⅱの二種が認められる。Ａは平底でやや外傾する口縁部をもち、その端部を内側に巻きこんでいる。Ｂは、平底で、口縁部は、外傾して、内湾気味にのびる。

埦 ゆるやかに内湾する体部に、やや外反する口縁部をもつ。

高坏 浅い坏部で、口縁部は、わずかに外反して、端部は屈曲して、内側に巻き込む。脚部は面とりをしているが、ハクリして不明瞭、ゆるやかに開く裾がつく。

壷 直口壷の口縁部と、底部と思われる破片がみられる。以上の坏、皿、高坏などは、平城宮跡SK820、SK219、SK2113に類例のあるもので、おおよそ、8世紀後半代のものであろう。(注９)

甕 丸底でほぼ円形の体部を短かい口縁のつくＡとほぼ同形で「く」字に外反する口縁を有するＢ、大形で「く」字に外反する口縁のＣがあり、いづれも内外面をハケ目調整する。Ｂは、口縁を内側に巻き込む、Ｂ－Ⅰと、巻き込まず、口縁外面に沈線をめぐらすＢ－Ⅱに細分される。Ａ・Ｂは、８世紀代に通有のものである。

皿 古代末～中世に通有なもの(注10)で、久野部七ノ坪例にならって、Ａ～Ｄの４種に分類され、口径の大小によりさらに細分される。

(3) 黒色土器

黒色土器Ａ類の埦がかなり出土している。

埦 口縁の内反するものと外反するものがあり、底部も高台の形態によりａ～ｃの３種に分類される。おおよそ鎌倉前期に類似の多いものである。なお、底部に「++」などのヘラ記号があり、注目される。

(4) その他

ほかに緑釉の埦１点、土師質の土錘１点が出土している。

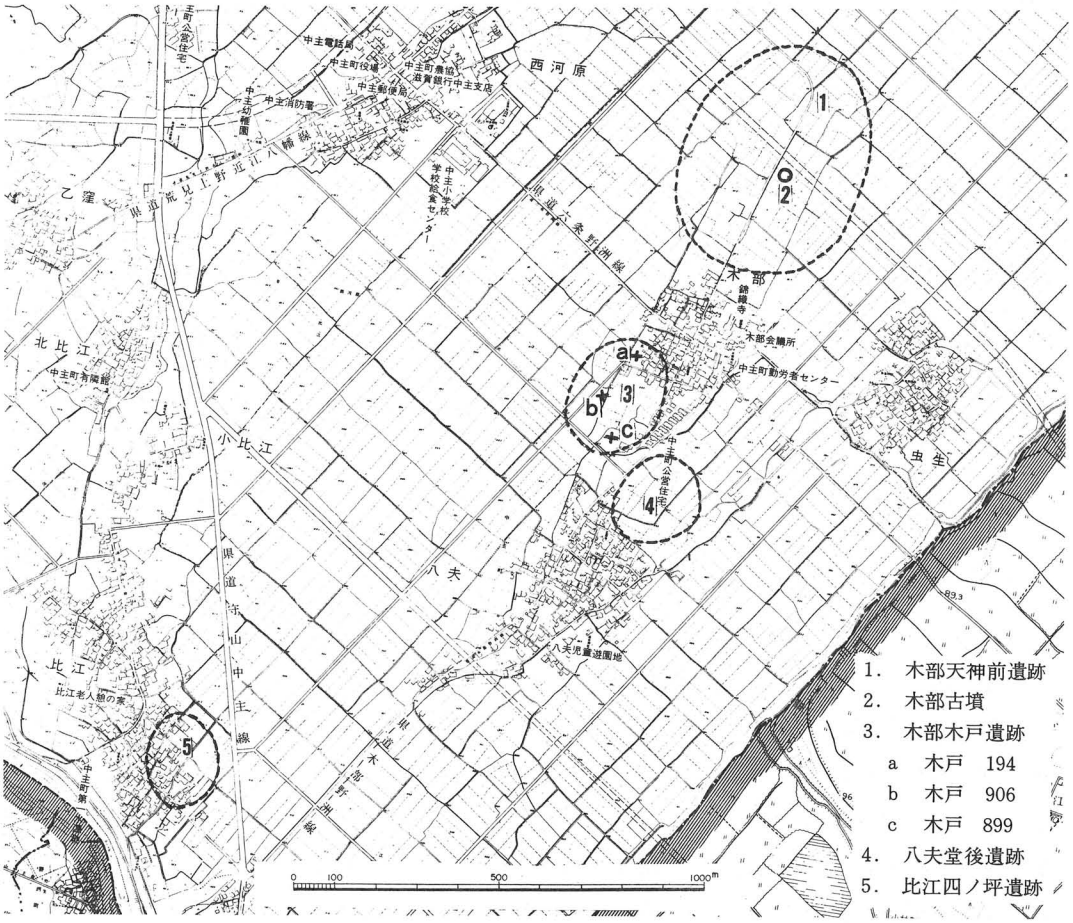
Ⅴ むすび

以上概略述べた通り、今回の調査では、１１０㎡という小面積であったが、井戸２基、土坑４基、ピット多数、溝など、奈良前期および鎌倉前期の遺構とそれに伴う遺物が出土し、大きな成果を上げた。ただ、遺構の存在は、予想通りであったものの、小面積ということもあって、その全貌を解明することは、きわめて困難であった。しかし、今回の調査によって、少なくとも本遺跡が奈良時代および鎌倉時代の集落の中心部であったことは明らかになり、従来不明な点の多かった中主町における集落遺跡の実態に、貴重な資料を追加するものと言えよう。したがって、この地域については、今後、遺跡の保存について十分な配慮が必要と言えるであろう。

付篇　周辺地域の出土遺物

従来、中主町内については、遺跡の分布調査が十分でなく、特に集落跡の所在は、ほとんど明らかでなかった。ところが、昭和48年ごろから、同町内における「ほ場整備」事業が頻発して、各所で水路等の掘削(注12)がなされ、各地で遺物の出土が報じられた。大部分の場合、工事完了後であったため、十分な調査はなされていないが、ここに報告するのは、中主町文化財審議委員、西本正明氏が、その前後に採集されたものと、県教委が緊急現地におもむいて、採集したものである。これらによって、本遺跡周辺の様相が明らかになるとともに、当該遺跡の保存、活用の資料にしたいと考える。

経過　これらの遺物は、昭和48年～昭和51年の間に、中主町木部、八夫など三ケ所で採集されたものであり、その出土層位は明確でない。ただ、いづれの場合も、「ほ場整備」の排水路掘削部分より出土をみたものである。以上の点より、木部から八夫にかけて、遺跡の広く分布していることが理解される。



第6図　周辺地域出土位置図

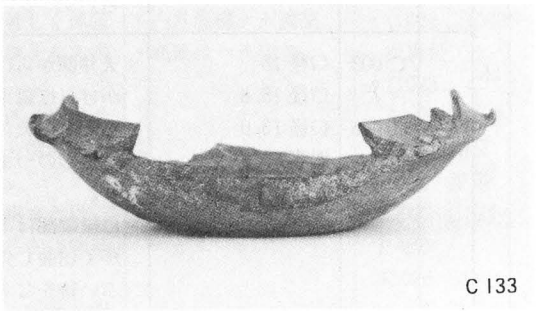
遺物　上述のとおり、採集品のため、出土層位もあいまいであるが、古式土師器をはじめ、古墳時代～奈良時代の須恵器、平安時代～鎌倉時代の土師器、黒色土器などが出土している。

［古式土師器］　図示し得たのは、高坏の脚部１点のみであった。ほかに甕などもみられる。

［須恵器］　坏蓋、坏身、高坏、鉢、壷などの出土がみられる。坏蓋に扁平な宝殊形のツマミがつき、鉢などの形態からみて、陶邑ＴＫ209・ＭＴ21・ＴＫ７に類似の多いものである。(注13)

［土師器］　土師器小皿が若干出土している。いづれも、平安後期～鎌倉期に通有のものである。(注14)

［黒色土器］　Ａ類の塊が数点出土している。久野部七ノ坪例に準じるなら、いわゆるＣ・Ｄタイプで、高台は逆台形の低いものである。鎌倉前期に通有なものである。(注15)



第７図　周辺地域出土土器

小結　以上、概略述べたように、従来、不分明な点の多かった中主町内の各地点において、古墳時代から鎌倉時代にかけての遺物が広範囲に分布することが明らかになった。このことから木部を中心に八夫、虫生にかけて、中主町内の中核的な集落跡が埋没していることが確実になったのであり、今後この地域の保存・研究に、十分なる注意が提起されることになったのである。

註

(1)　旧中里村に属したため、「中里古墳」とも呼ばれ、明治31年発掘された際、獣形鏡１面、剣、銅鈴各１点、管玉、臼玉若干、馬具破片、須恵器の出土をみたという。（柴田実編『滋賀県史蹟名勝天然記念物概要』昭11　滋賀県）
(2)　　付篇参照
(3)　田辺昭三『陶邑古窯址群Ⅰ』（平安学園考古クラブ、研究論集10．1966）　中村浩『陶邑Ⅲ』の編年案によれば、ＡはⅢ－６段階に類例がみえ、ＢはⅣ－１、２段階にみえる。
(4)　同上書によれば、ＡはⅡ－５、６、ＢはⅢ－１、２、ＣはⅣ－２、３に類似品がみえる。
(5)　同上書によれば、Ⅱ－５段階に類例が認められる。
(6)　同上書によれば、Ⅲ－１段階に類例が認められる。
(7)　同上書によれば、Ⅳ－１段階に類例が認められる。
(8)　同上書によれば、Ⅱ－６・Ⅲ－２段階に類例が認められる。
(9)　奈良国立文化財研究所編『平城宮発掘調査報告』Ⅱ・Ⅳ（1962・1972）
(10)　注(9)に同じ。
(11)　大橋信弥ほか『久野部遺跡発掘調査報告書―七ノ坪地区―』（滋賀県教育委員会　1977）
(12)　ちなみに、昭和46年に改定された『滋賀県遺跡目録―湖南地区―』では、総計７遺跡、このうち集落跡は１遺跡のみであった。
(13)　注(3)に同じ。
(14)　注(11)に同じ。
(15)　注(11)に同じ。

木部天神前遺跡の出土遺物

※注記以外包含層出土

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
須恵器	坏蓋	A	C 001 C 002	口径 15.2 口径 12.8	◦天井部はわずかに内湾気味で、口縁部は外反してのび端部を丸く収める。 ◦体部と口縁部の境界は不明瞭な凹線によってわずかに判明する。	◦内外面横ナデ調整	◦暗灰色 ◦胎土　精良 焼成　堅緻 (C 001-P 48) (C 002-SD 3)
		B-Ⅰ	C 003 ～ C 005	口径 15 口径 15.8 口径 13.0 器高 2.5	◦天井部から口縁部にかけほぼ扁平なつくりで、中央に扁平な宝珠形のつまみを有す。 ◦口縁端部は下方へ短かく屈曲し先端ににぶい稜をなす。	◦内外面横ナデ調整	◦淡灰色 ◦胎土　精良 ◦焼成　堅緻 (C 003-P 48)
		B-Ⅱ	C 006 C 007	口径 15.6 口径 13,2	◦天井部は扁平なつくりで、口縁部との境界は段をなす。 ◦口縁端部は、鋭く内反して着地する。 ◦天井部中央に扁平な宝珠形のつまみ。	◦内外面横ナデ調整	◦青灰色 ◦胎土　精良 ◦焼成　堅緻 (C 006-P 48)
		B-Ⅲ	C 008 ～ C 010	口径 13.8~16.6 器高 1.9 (C 009)	◦天井部は扁平なつくりで、口縁はゆるやかに内湾して、端部は屈曲する。 ◦天井部中央に扁平な宝珠形のつまみ。	◦内外面横ナデ調整 (C 008-P 80)	◦青灰色 ◦胎土　精良 ◦焼成　堅緻
			C 011 C 012		◦扁平な宝珠形のつまみ。		◦淡灰色 ◦胎土　精良 ◦焼成　堅緻
	坏身	A-Ⅰ	C 013 ～ C 016	口径 11.0 ～ 口径 15.0	◦口径の小さい扁平な浅い体底部 ◦口縁部立上りは、いずれも強く内傾し、低い。 ◦受部は湾曲気味に外上方へのびる。	◦内外面横ナデ調整	◦暗灰色 ◦胎土　精良 ◦焼成　堅緻 (C 016-SD 1)

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
須恵器	坏身	A-Ⅱ	C 017 〜 C 021	口径 10.7 〜 口径 12.8	◦口径の比較的大きい杯身で体底部は丸味を有し、やや深いものであるが、C 020 C 021は、底部がやや扁平気味で浅いつくりである。 ◦口縁部立上りは、いずれも強く内傾し、低い。 ◦受部は、湾曲気味に外上方へのびる。	◦内外面横ナデ調整	◦灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻 (C 019-SK2) (C 020-SD3) (C 021-P 24)
		A-Ⅲ	C 022 〜 C 026	口径 8.2 〜 口径 14.8	◦小型化は著しく体底部は、丸味をもち浅い。 ◦口縁部の内傾度はさらに強まり端部を丸く収める。 ◦受部は水平または、外上方へ湾曲気味にのびる。 ◦C 023は、受部を強く外方へひき出す。	◦内外面横ナデ調整 ◦底部はヘラ切り。	◦C022、C026 灰青色 ◦C023、C024、C025 淡灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻 (C023〜C025-P48) (C026-SD3)
		B-Ⅰ	C 207	口径 12.4 器高 3.7	◦底部はやや不安定な平底で丸味をもって体部へと続く。 ◦体部はほぼ直線的に外上方へのび、口縁端部を丸く収める。	◦内外面横ナデ調整 ◦底部ヘラ切り	◦淡灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
		B-Ⅱ	C 028	口径 17.5	◦底部は安定した平底で、底部から体部への屈曲は鋭い。 ◦体部はほぼ直線的に外上方へのび、口縁端部を丸く収める。	◦内外面横ナデ調整 ◦底部はヘラケズリ不調整	◦青灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
			C 029 C 030	口径 14.0 口径 12.2 底径 8.8	◦底部は安定した平底で体部はやや湾曲気味に外上方へのび、口縁端部をわずかに外反させ丸く収める。	◦内外面横ナデ調整 ◦底部はヘラケズリ不調整	◦青灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
		B-Ⅲ	C 031	口径 14.0	◦底部は平底で、丸味をもって体部へと続く。 ◦体部は直線的に外上方へのび、口縁端部	◦内外面横ナデ調整	◦淡青灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
須恵器					を強く外方へ引き出し上端部を平担に収める。		
	坏身	C	C 032 ～ C 034	口径 13.2~14.8 高台高3.0~ 4.5 底径 9.2~10.8	◦体部は直線的に外上方へのび端部を丸く収める。 ◦逆台形の不安定な高台で、やや外傾し、内先端で接するものが多い。	◦内外面横ナデ調整 ◦貼り付け高台	◦淡灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
			C 035 ～ C 038	底径 7.4~11.6 高台高 2.0 ~ 2.5	◦逆台形の安定した高台で、外傾する。	◦貼り付け高台 ◦貼り付け後ナデ（C 038-SD2）	◦灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
	高坏		C 039 C 040	口径 12.0 口径 13.4	◦体部はゆるやかに内湾、口縁部立上りは強く内傾し、低い受部は、短かくやや湾曲して外上方へのびる。 ◦脚部は細長く、ゆるやかに外下方へのび口縁端部を短かく屈曲させやや外反して丸く収める。 ◦脚部中位に2条の凹線、裾部に1条の凹線をめぐらす。 ◦透しは2段で、上段のそれは貫通せず、2方にあけている。	◦内外面横ナデ調整	◦暗灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
	甕		C 041		◦顎部は長く、外上方へのびる。 ◦顎部と口縁部との境は凸帯によって明瞭な段をなし、口縁はさらに外反する。 ◦口縁部に1条＋α顎部に2条の凹線をめぐらす。 ◦胴部は中位に最大径をもち、肩部と体部下半に各々1条の沈線をめぐらす。	◦内外面横ナデ調整 ◦体部外面下半に指押え。	◦暗黒青灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻 （SD2）
	壷		C 042	口径 11.6	◦胴部中上位に最大径を有する小型壷で、口頸部は短かく外反気味で端部を丸く収	◦内外面横ナデ調整（SD2）	◦黒灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
					める。		
須恵器	壷	底部	C 043	底径 10.2	◦安定した平底 ◦体部はやや湾曲して外上方へのびる。	◦内外面横ナデ調整 ◦底部はヘラ切り	◦灰白色 ◦胎土　精良 ◦焼成　堅緻
	甕	A	C 044 C 045	口径 33.2 口径 35.2	◦頸部はゆるやかに外湾して、口縁部に至り、口縁端部を折り曲げ肥厚させる。 ◦頸部上半に縦方向のヘラ描き沈線をめぐらせ、その上に2条を単位とした凹線を6条めぐらす。 （C 044）	◦外面下半横ナデ調整及び指押え ◦内面上半横ナデ調整 ◦内面下半不定方向の指ナデ	◦C 044　淡灰色の自然 C040　暗青灰色 ◦胎土　良好 ◦焼成　堅緻
		B	C 046 C 047	口径 18.2 口径 20.2	◦体部はゆるやかに内湾、頸部は「く」字状に屈曲し、外湾して上方にのびる。 ◦口縁部先端を外方に肥厚させ、先端を丸く収める。 ◦C 042は、外方へ肥厚させると同時に内面にも拡張する。	◦口縁内外面横ナデ調整 ◦体部外面は、ハケ目調整後ナデ ◦体部内面は青海波文の叩きを残す。	◦淡灰色 ◦胎土　精良 ◦焼成　堅緻 (C 047-SD2)
		C	C 048	口径 13.6	◦頸部は、急速に立上がり、外湾して短かくのびる。 ◦口縁端部をやや上下に肥厚させる。	◦口縁内外面横ナデ調整 ◦体部上半内面に叩きを残す。 （SD2）	◦暗灰色 ◦胎土　良好 ◦焼成　堅緻
		底部	C 049	底径　4.2	◦やや凹底気味の底部	◦内外面横ナデ調整	◦青灰色 ◦胎土　精良 ◦焼成　堅緻
土師器	坏		H 050	口径 20.2	◦底部は平底で、体部は内湾して、やや斜方向に立ち上がる。口縁部は外反し端部を内側に折り曲げ丸くおさめる。 ◦口縁内側に一条の沈線がめぐる。	◦内外面横ナデ調整	◦赤褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
	皿	A	H 051 ～ H 056	口径 13.4 ～ 20.0 器高　2.35	◦底部は、平底で体部は内湾気味、口縁部はやや強く外反し、端部を丸く収める。	◦内外面横ナデ調整後指押え	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好 （H052-SK5）

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
土師器	坏				◦口縁部内側に1条の沈線		(H055-SD2)
	皿	B	H 057 H 058	口径 12.6 口径 12.4	◦底部は平底気味で、体部は直線的にのび上がり、端部を丸く収める。	◦内外面横ナデ調整後指押え (H 057-P 71)	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
		C	H 059	口径 12.8	◦体部はやや湾曲しながら外上方へのび口縁部はほぼ直立して端部を丸く収める。	◦内外面指押え	◦淡赤褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
	椀	底部	H 060 H 061	口径 13.0 口径 12.2	◦体部は、ゆるやかに内湾し、口縁部はわずかに外反して端部を丸く収める。	◦内外面横ナデ調整後指押え (H 061-SD2)	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
	高坏		H 062	口径 24.8	◦体底部はやや扁平なつくりで、やや屈曲して口縁部が続き、端部を内側に折り曲げて丸く収める。	◦内外面指押え	◦赤褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
			H 063		◦脚部は細長くわずかに外開きに下降し裾部でさらにうしろへ開く。	◦脚部外面ヘラケズリ指押えあり ◦内面指ナデ	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
	壷	A	H 064	口径 8.4	◦顎部は、短かく外湾してのび端部を丸く収める。	◦内面指押え	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
		底部	H 065	底径 6.6	◦やや不安定な平底の底部である。	◦外面指押え	◦赤褐色 ◦胎土　1㎜大の砂粒含 ◦焼成　良好
	甕	A	H 066	口径 19.2	◦体部は丸味を呈し、顎部は短かく外湾して、端部を丸く収める。	◦内外面横ナデ調整 ◦体部内外面指押え (P 106)	◦淡茶褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
		B-I	H 067 H 068	口径 14.6 口径 13.2	◦体部は、ゆるやかに内湾し、頸部は外湾してのび口縁は「く」字に屈曲する。 ◦端部を内側に折り曲げ丸く収める。 ◦口縁部内側に1条の沈線をめぐらす。	◦内外面ハケ目調整後ナデ及び指押え ◦口縁部内外面横ナデ調整	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好 (H 068-SE1)

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
土師器	甕	B-Ⅱ	H 069 ～ H 071	口径 14.6 ～ 18.8	◦体部は丸味を呈し、頸部は強く「く」字形に屈曲し、口縁部はやや外湾する。外側に1条の沈線をめぐらす。	◦内外面ハケ目調整後ナデ及び指押え ◦後縁部内外面横ナデ調整	◦深茶褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
		底部	H 072		◦急速に湾曲して立ち上がる把手。 ◦体部はゆるやかに内湾して底部に至る。	◦体部内外面ハケ目調整 ◦把手外面に指押え （P48）	◦茶褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
		C	H 073 H 074	口径 27.2 口径 25.6	◦「く」字形の単純口縁。 ◦H 058は、外面にややふくらみをもち稜をつくる。	◦内外面ハケ目調整後ナデ及び指押え （H 074-SD3）	◦淡赤褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
		底部	H 075	底径 8.4	◦やや不安定な平底で体部への屈曲は丸味をもつ。		◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
	小皿	A	H 076 H 077	口径 9.4 口径 9.2	◦扁平な小皿で、口縁端部を内側に折り曲げる。	◦粘土板成形 ◦内外面指押え （H 077-SK1）	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
		B	H 078 H 079	口径 9.4 口径 9.2	◦底部は丸底で、体部はゆるやかに内湾し、口縁部はわずかに外反し、端部を丸く収める。	◦粘土板成形 ◦外面指押え	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
		C	H 080 H 081	口径 10.8 口径 9.6	◦底部はやや上げ底気味に体部はゆるやかに内湾し、口縁部はわずかに外反、端部を丸く収める。	◦粘土板成形 ◦内外面指押え	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
			H 082 H 083	口径 10.4 口径 10.4	◦底部は平底気味で体部は直線的に外上方へのび端部を丸くおさめる。	◦粘土板成形 ◦内面指押え	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好
		D	H 084 ～ H 086	口径 8.0 ～ 10.8	◦底部は、丸底気味で、体部はゆるやかに内湾、口縁部は外反して、端部を丸くおさめる。	◦粘土板成形 ◦内外面ナデ調整後指押え	◦淡褐色 ◦胎土　良好 ◦焼成　良好

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
土師器	皿	D	H 087	口径 7.6 器高 1.5	◦底部は、丸底で体部は直線的に外上方へのび端部を丸く収める。	◦粘土板成形 ◦内外面指押え	◦淡褐色 ◦胎土 良好 ◦焼成 良好
		A	H 088 ～ H 090	口径 13.0 ～ 15.6	◦体部は、ゆるやかに内湾し、口縁部は外反して端部を丸く収める。	◦粘土板成形 ◦内外面横ナデ後指押え	◦淡褐色 ◦胎土 良好 ◦焼成 良好
		B	H 091 H 092	口径 16.8 口径 14.0	◦底部は安定した平底やや凹気味のものもある。（H 091） ◦体部は、ゆるやかに内湾し、口縁部は強く外反して端部を丸く収める。	◦粘土板成形 ◦内外面横ナデ後指押え	◦淡褐色 ◦胎土 良好 ◦焼成 良好
黒色土器	椀	A	B 093 ～ B 096	口径 14.6～17.6 高台高 0.8 器高 4.3	◦体部はゆるやかに内湾し、口縁部はやや内反、端部を丸く収める。 ◦口縁部内側に一条の沈線。 ◦逆台形の安定した高台で、外傾する。	◦粘土紐巻き上げ。 ◦内外面指押え ◦内面にヘラミガキを施す。	◦内面、一部外面黒色 ◦外面、淡褐色 ◦胎土 良好 ◦焼成 良好
		B	B 097 ～ B 100	口径 12.0 ～ 15.2	◦体部はゆるやかに内湾し、口縁部はわずかに外反して端部を丸く収める。 ◦口縁部内側に一条の沈線。	◦粘土紐巻き上げ。 ◦内外面指押え ◦内面にヘラミガキを施す。	◦内面、一部外面黒色 ◦外面 淡褐色 ◦胎土 良好 ◦焼成 良好
		a	B 101 ～ B 106	底径 4.8~11 高台高 0.4~1.1	◦断面逆三角形の安定した高台でやや内傾する。	◦貼り付け高台 ◦貼り付け後ナデ及びヘラミガキ （B 101-SD3）	◦内面 黒色 ◦外面 淡褐色 ◦胎土 良好 ◦焼内 良好
		b	B 107 ～ B 113	底径 5.2~7.2 高台高 0.8~0.95	◦逆台形の高台で外傾する。 ◦外面下端を斜めに削るため内面で接地する。	◦貼り付け高台 ◦貼り付け後ナデ及びヘラミガキ （B 108-SK5） （B 110-SD3）	◦暗茶色 ◦胎土 良好 ◦焼成 良好
		c	B 114 ～ B 117	底径 4.4~6.8 高台高 0.5~0.8	◦逆台形の安定した高台で、強く外傾するものもある。 ◦底部外面にヘラ沈線による印のあるものもある。	◦貼り付け高台 ◦貼り付け後ナデ及びヘラミガキ	◦内面 黒色 ◦外面 淡褐色 ◦胎土 良好 ◦焼成 良好

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
緑釉	埦		G 118	底径 8.6 高台高 0.8	◦逆台形の安定した高台で、やや内傾する。	◦貼り付け高台 ◦貼り付け後ナデ	◦縁黄色の釉 ◦胎土 良好 ◦焼成 良好
土師器	土錘		H 119	直径 2.0 長さ 3.5	◦やや中ぶくれの柱状を呈す。 ◦直径1.0cmの円孔を穿つ。	◦手づくね	◦灰褐色 ◦胎土 良好 ◦焼成 良好

周辺地域の出土遺物　(E020 木戸899 C121~C125 木戸194 H126~C132 木戸906 C133~C135 八夫堂後)

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
古式土師器	高坏		E 120		◦大きく「ハ」字状に開く脚部で、中空のもの。	◦外面ヘラ削り ◦内面ナデ	◦淡茶褐色 ◦胎土 細砂含む ◦焼成 良好
須恵器	坏		C 121	口径 15.8	◦扁平な天井部及び体部に、やや内湾気味に下方に折曲げた口縁部がつく。	◦内外面横ナデ調整。 ◦天井部外面はヘラケズリ後仕上げナデ	◦灰白色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
	高坏		C 122		◦ゆるやかにロート状に開く脚部で中空である。 ◦脚部上位に3個の孔を穿つ。	◦脚部にハケ目調整 ◦内外面横ナデ	◦黒灰色 ◦胎土 砂粒含む ◦焼成 堅緻
	鉢		C 123	底径 8.2	◦不安定な平底で、体部は屈曲して外上方へのびる。 ◦体部中位に2条の沈線。	◦粘土紐巻き上げ。 ◦内外面横ナデ	◦暗黒灰青色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
	壷		C 124 C 125	口径 12.2 ~14.4	◦口縁部は、外上方にのび端部を内外両面に拡張する。	◦内外面横ナデ調整	◦黒灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
土師器	皿		H 126 H 127	口径 9.0 器高 2.0 口径 9.0 器高 1.5	◦底部は丸底で、体部はゆるやかに内湾し口縁部はわずかに外反。 ◦底部は上げ底で体部は直線的に外上方へのび端部を丸く収める。	◦粘土板成形 ◦内外面横ナデ調整 ◦粘土板成形 ◦内外面横ナデ調整	◦淡褐色 ◦胎土、焼成良好 ◦淡褐色 ◦胎土、焼成良好

器種	器形		図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形手法の特徴	備考
黒色土器	塊	C	B 128	口径 16.0	◦体部は、ゆるやかに内湾し、端部を丸く収める。 ◦口縁内側に1条の沈線	◦粘土紐巻き上げ。 ◦内面ヘラミガキによる暗文 ◦外面指押え。	◦黒灰色 ◦胎土、焼成良好
		D	B 129	口径 16.0	◦体部は、ゆるやかに内湾し、口縁部は外反して端部を丸く収める。	◦粘土紐巻き上げ。 ◦内面ヘラミガキによる暗文 ◦外面指押え。	◦黒褐色 ◦胎土、焼成良好
			B 130	底径 5.6 高台 0.5	◦低い逆台形の高台でやや外傾する。	◦貼り付け高台 ◦貼り付け後ヘラミガキ。 ◦内外面指押え	◦淡褐色 ◦胎土、焼成良好
須恵器	蓋		C 131	つまみ 径3.6 高0.9	◦天井部は、やや丸味をもち、つまみはやや大きく、中央部が凹む。	◦内外面横ナデ調整 ◦天井部外面はヘラ削り後仕上げナデ。	◦黒色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
			C 132	口径 15.4	◦扁平な天井部於び体部にやや内反気味に下方に折曲げたやや高めの口縁部がつく。	◦内外面横ナデ調整	◦暗灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
	坏身		C 133	口径 10.8 器高 3.4	◦口縁部立上りは低く強く内傾する。 ◦受部はやや湾曲気味に外上方へのび、端部を上方へ丸める。 ◦体底部は比較的浅く扁平である。	◦全体に外面横ナデ	◦黒灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
			C 134	底径 10.4 高台高 0.5	◦安定した低い逆台形の高台	◦内外面横ナデ調整	◦淡灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻
	蓋		C 135		◦宝珠形のつまみ		◦灰色 ◦胎土 精良 ◦焼成 堅緻

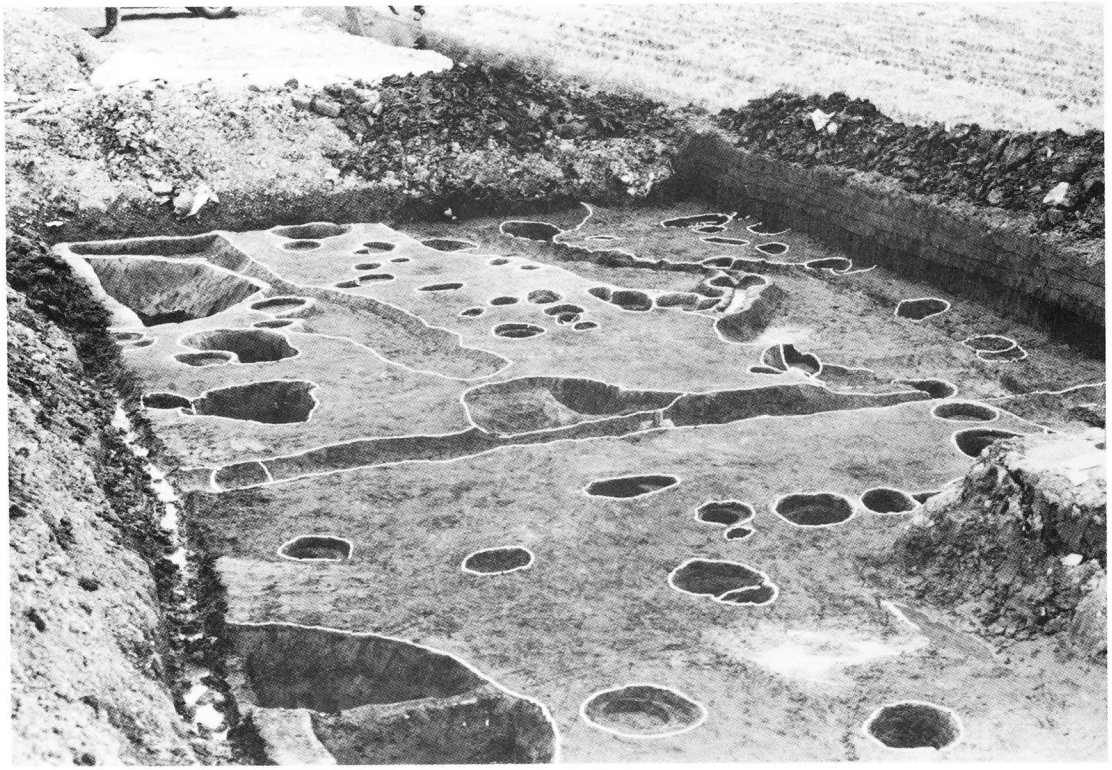
図　　版

1. 調査区全景（北より）

2. 調査区全景（南より）

1. 調査区近景（東より）

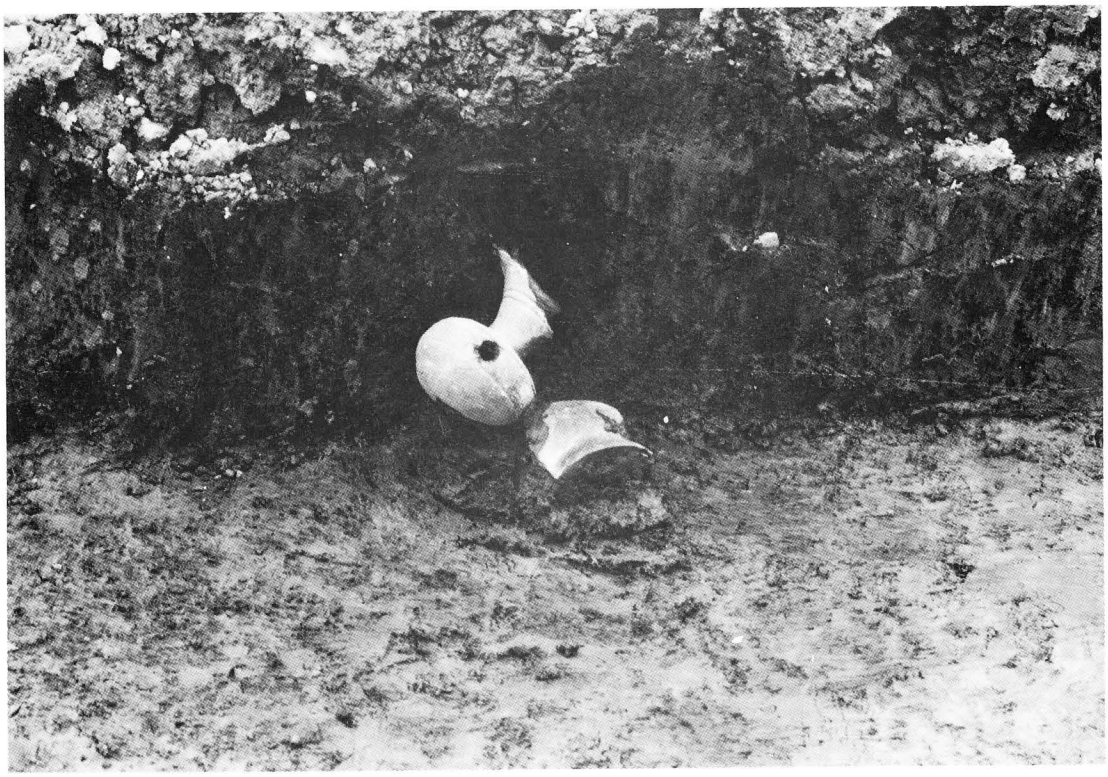
2. 調査区近景（東より）



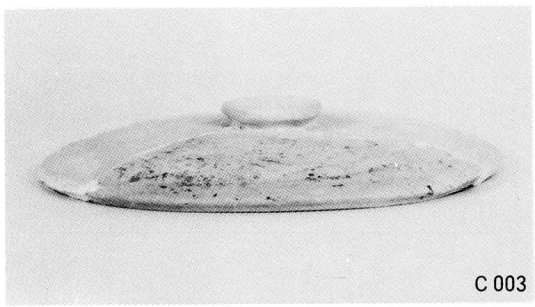
1. 調査区南半部近景（北より）

2. 調査区北半部近景（南より）

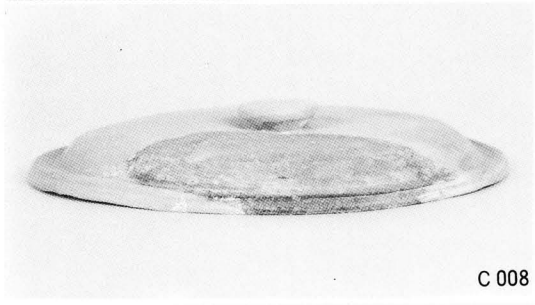
1. ＳＥ１　ＳＤ１　ＳＫ２　ＳＫ３　近景（南より）



2. ＳＤ２　遺物出土状況


C 003

C 005


C 008

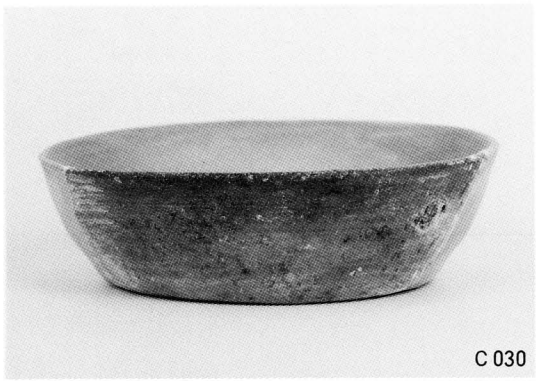
C 009

C 027

C 028

C 039

C 041


C 030

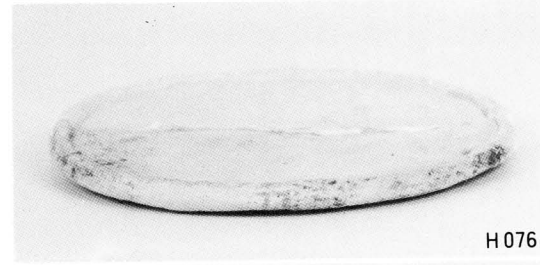
C 032

C 033

C 034

H 050

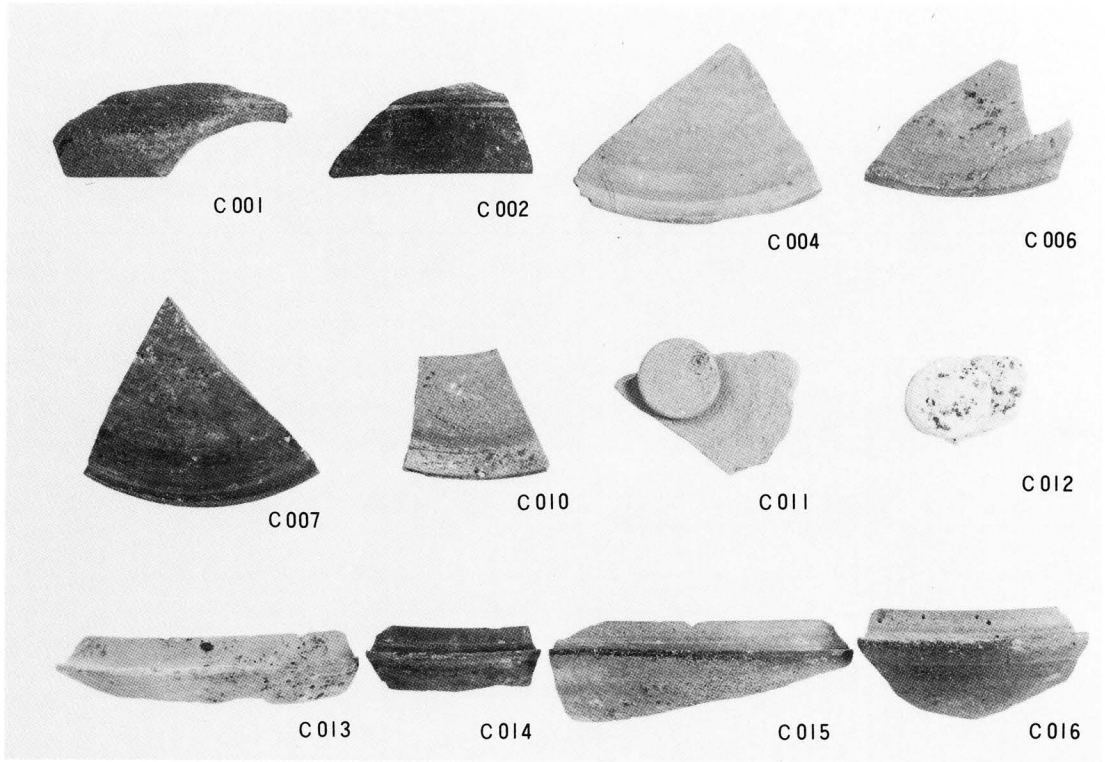
H 051


H 076

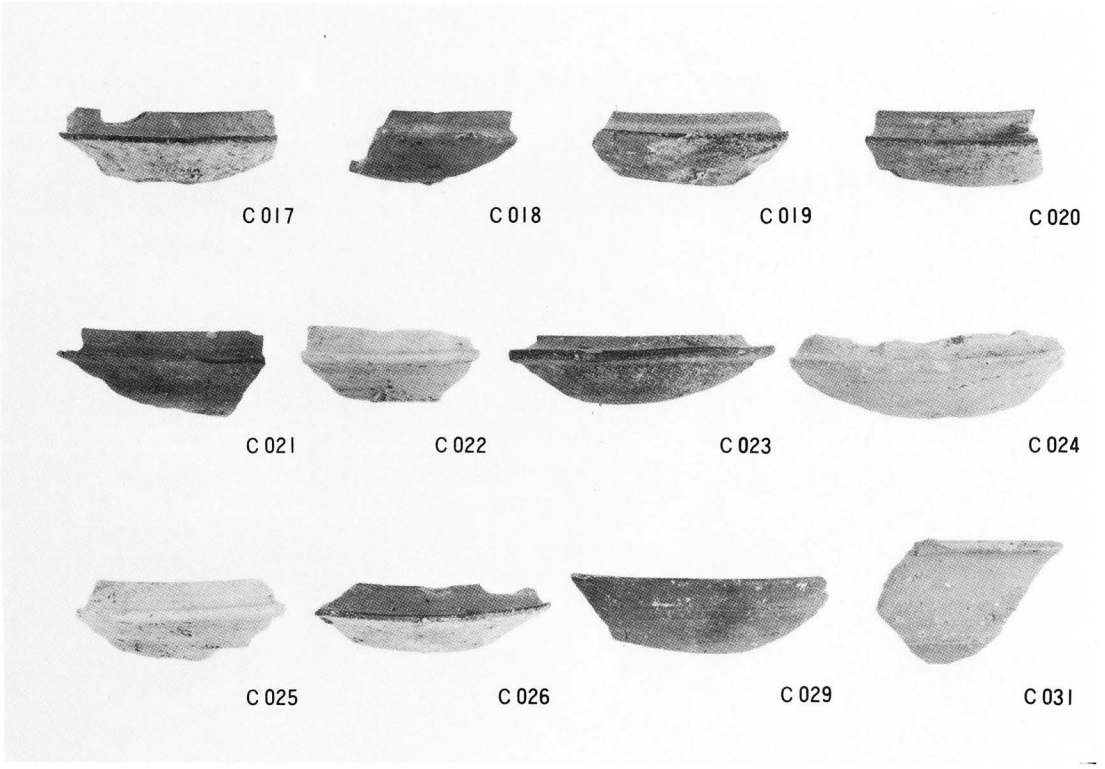
H 092

H 057

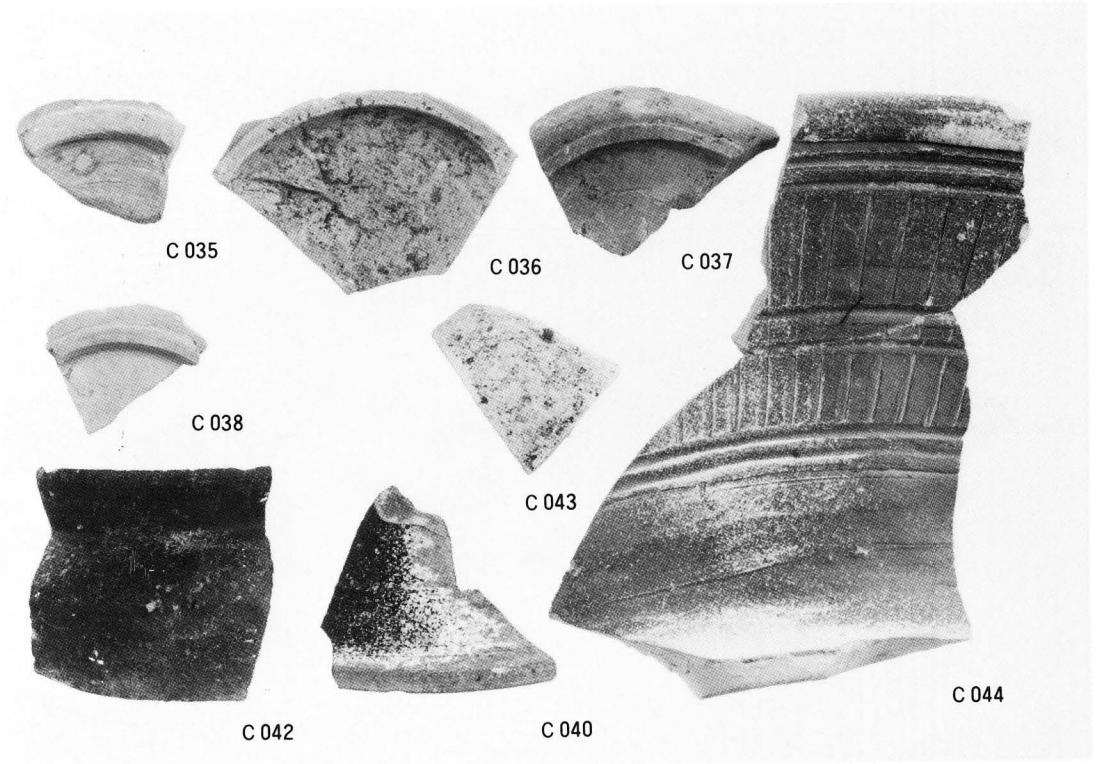
B 093



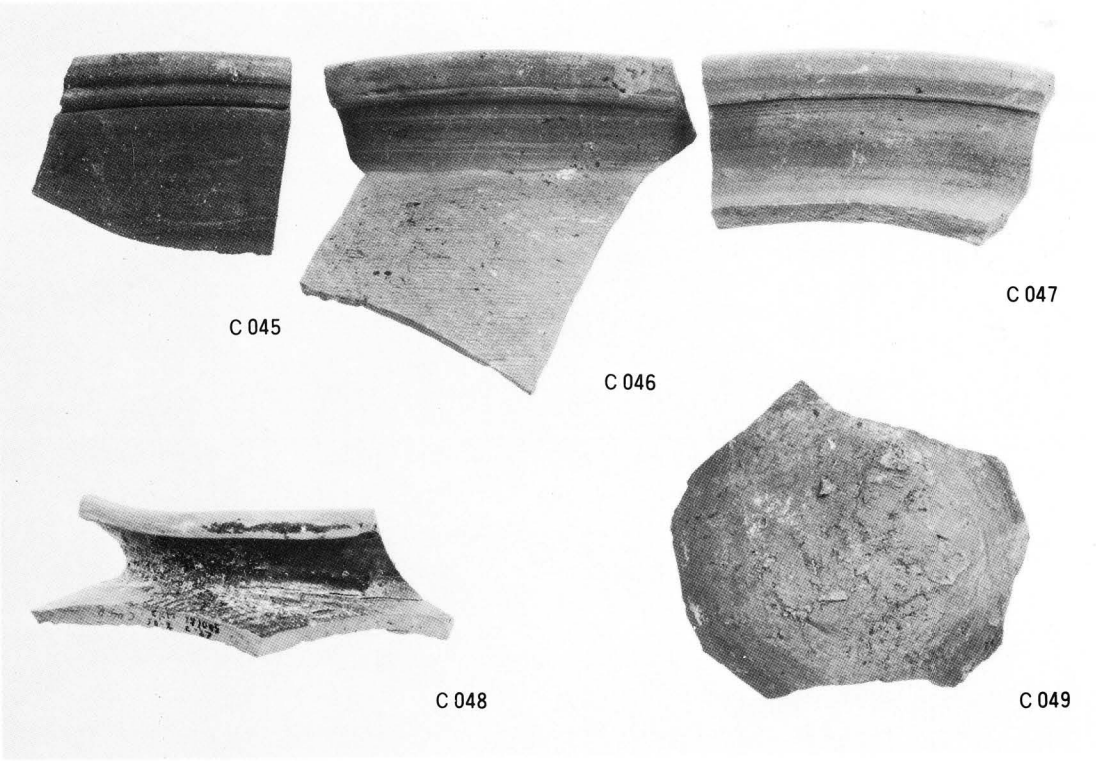
須恵器（C 001～C 016）



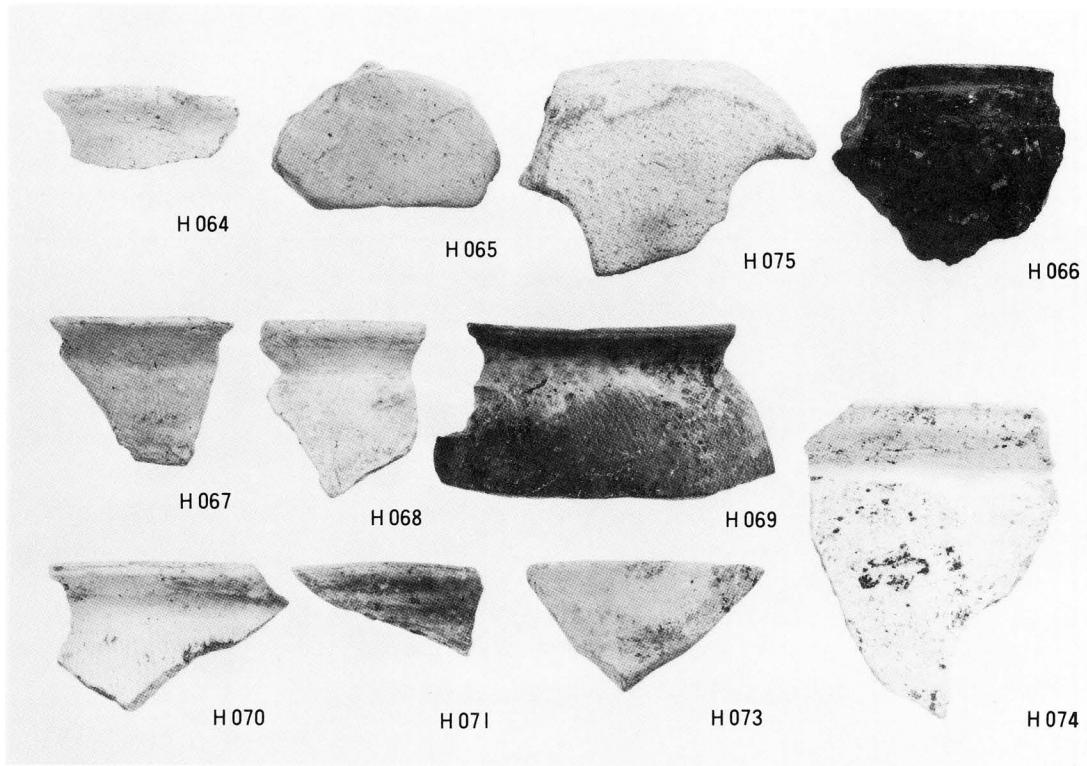
須恵器（C 017～C 031）



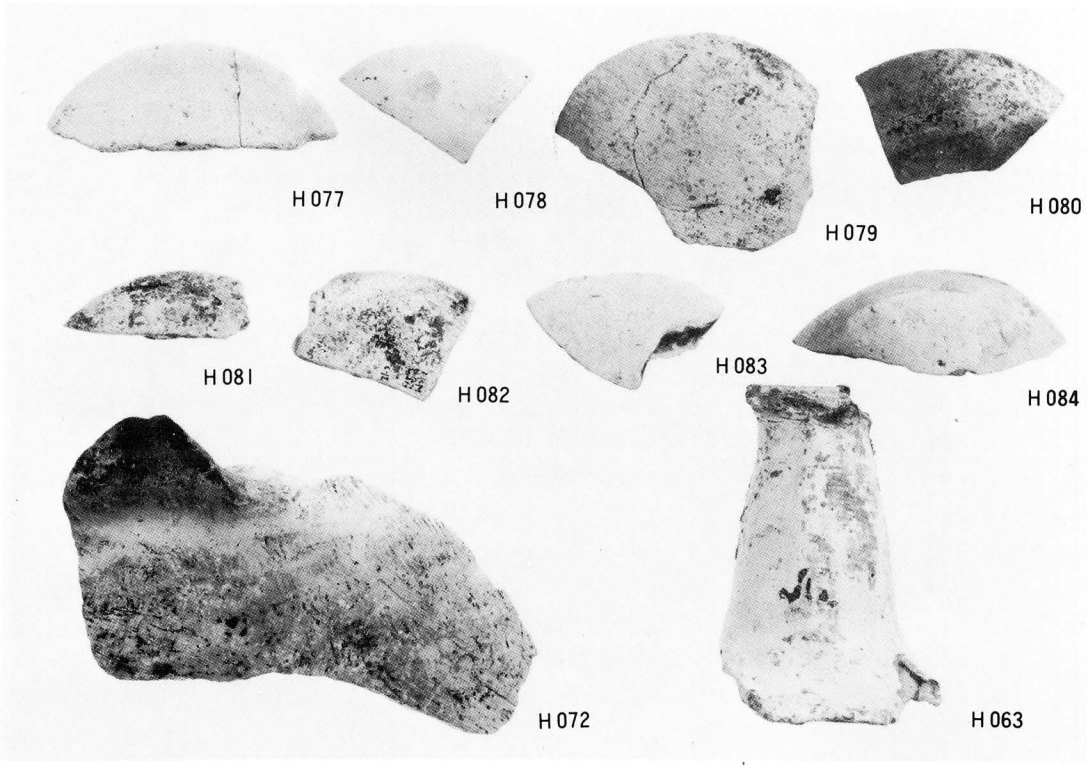
須恵器（C 035～C 044）



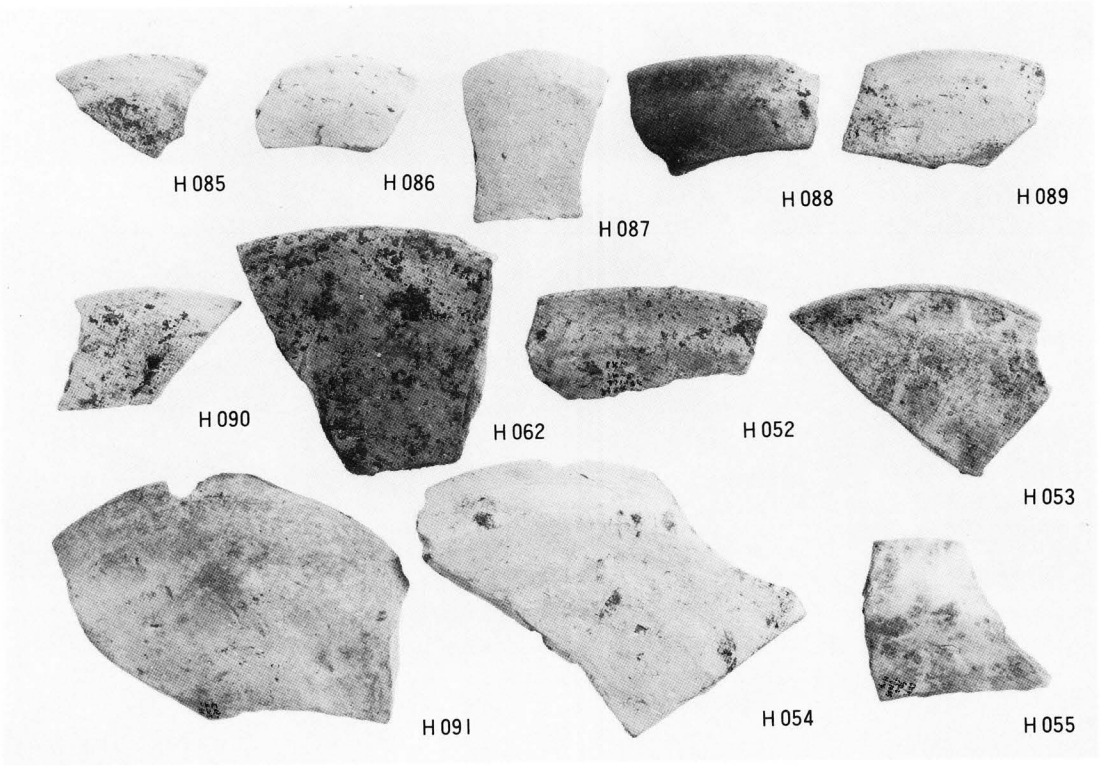
須恵器（C 045～C 049）



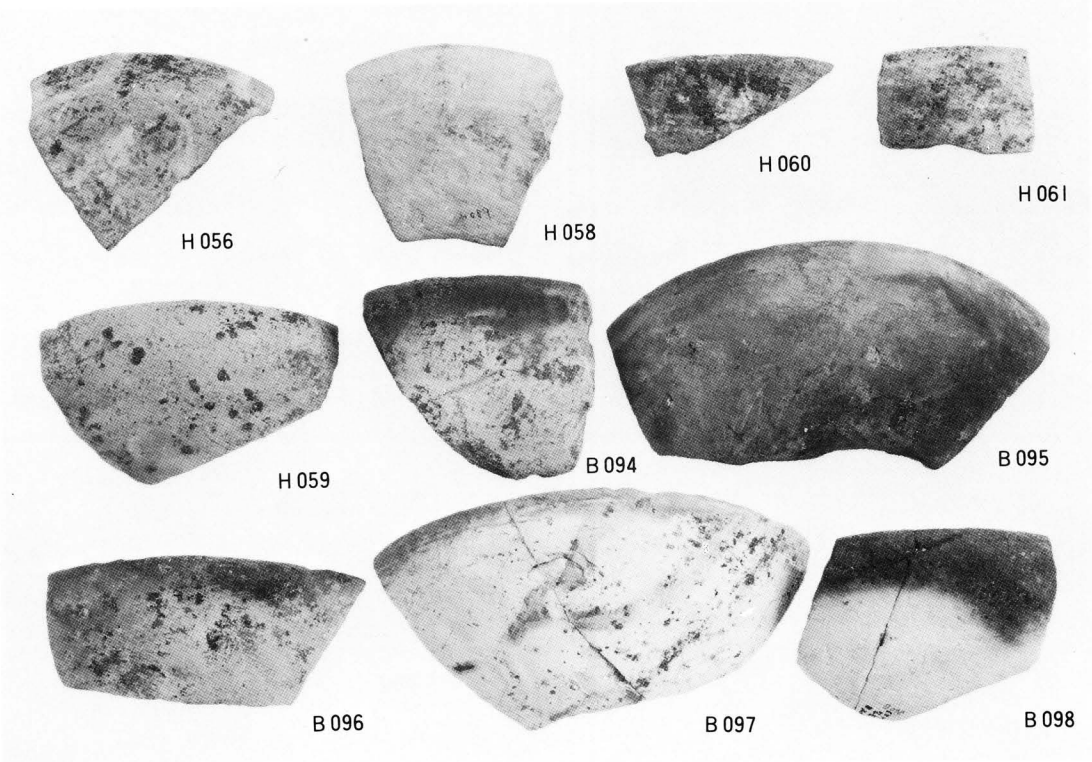
土師器（H 064～H 075）



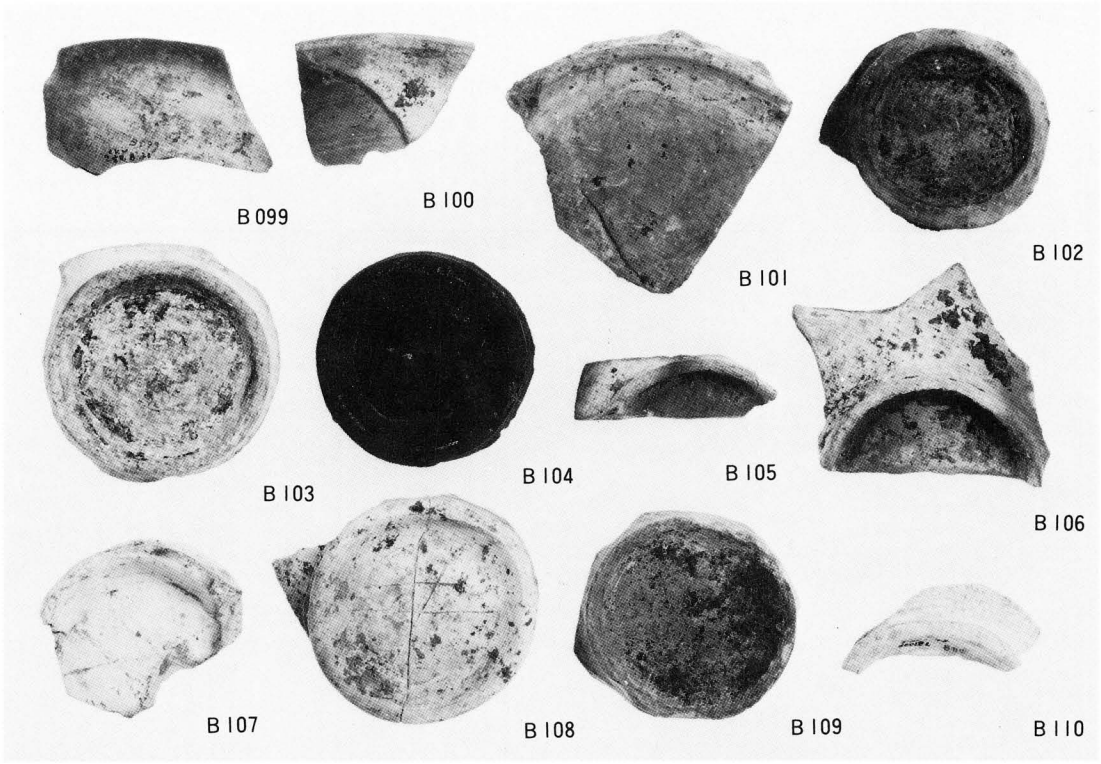
土師器（H 063～H 084）



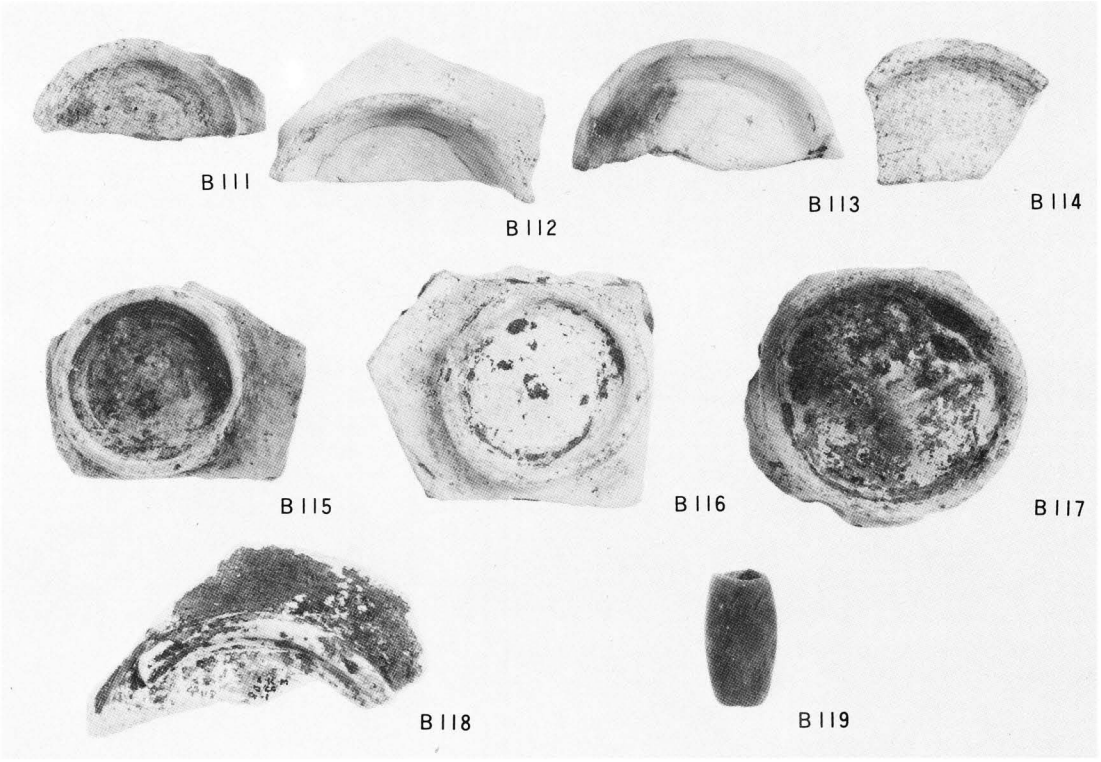
土師器（H 085～H 091，H 052～H 062）



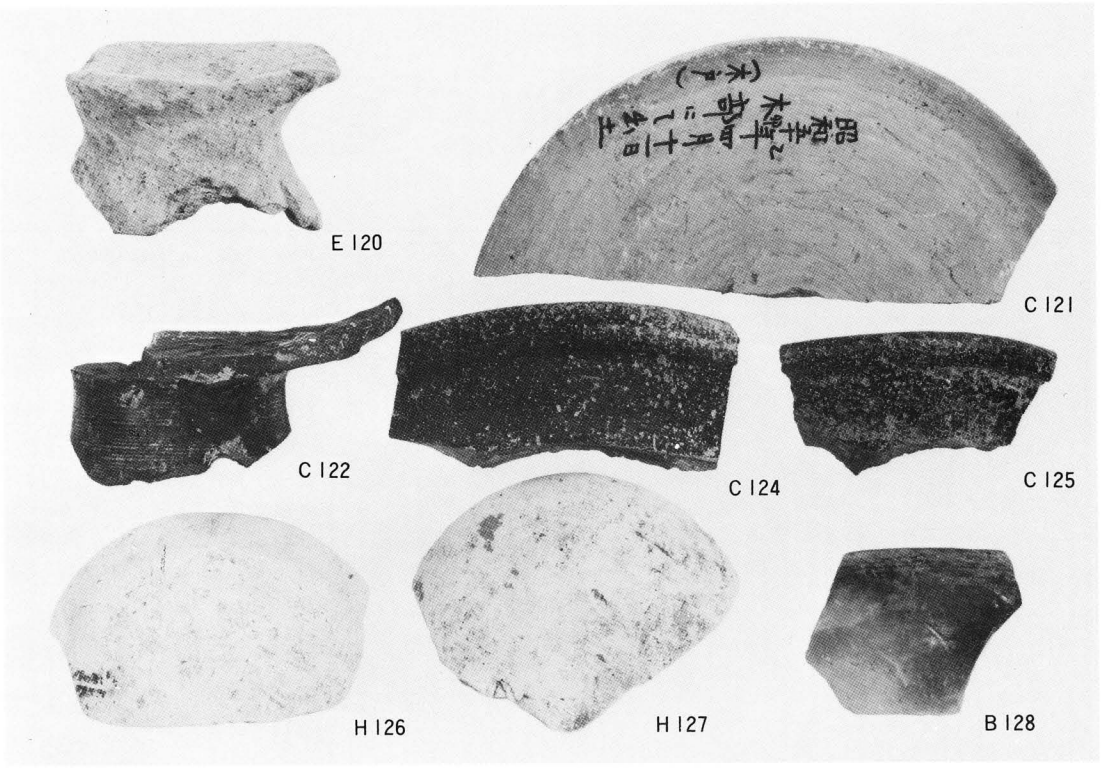
土師器（H 056～H 059），黒色土器（B 094～B 098）



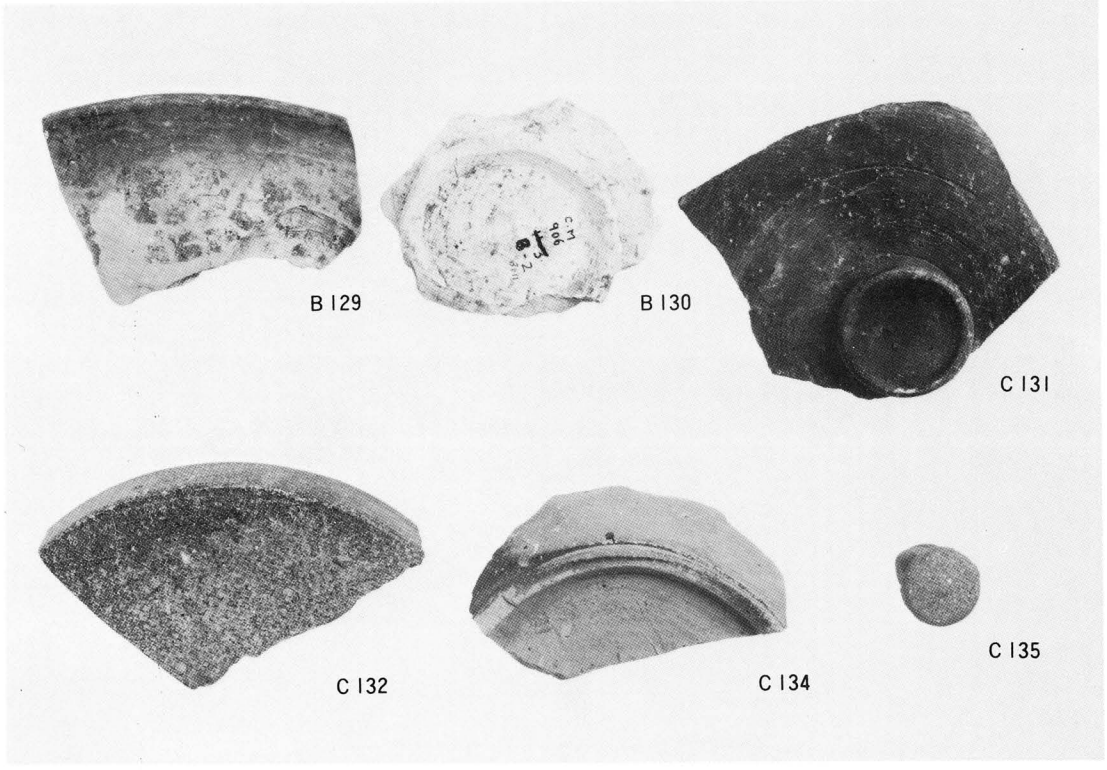
黒色土器（B 099～B 110）



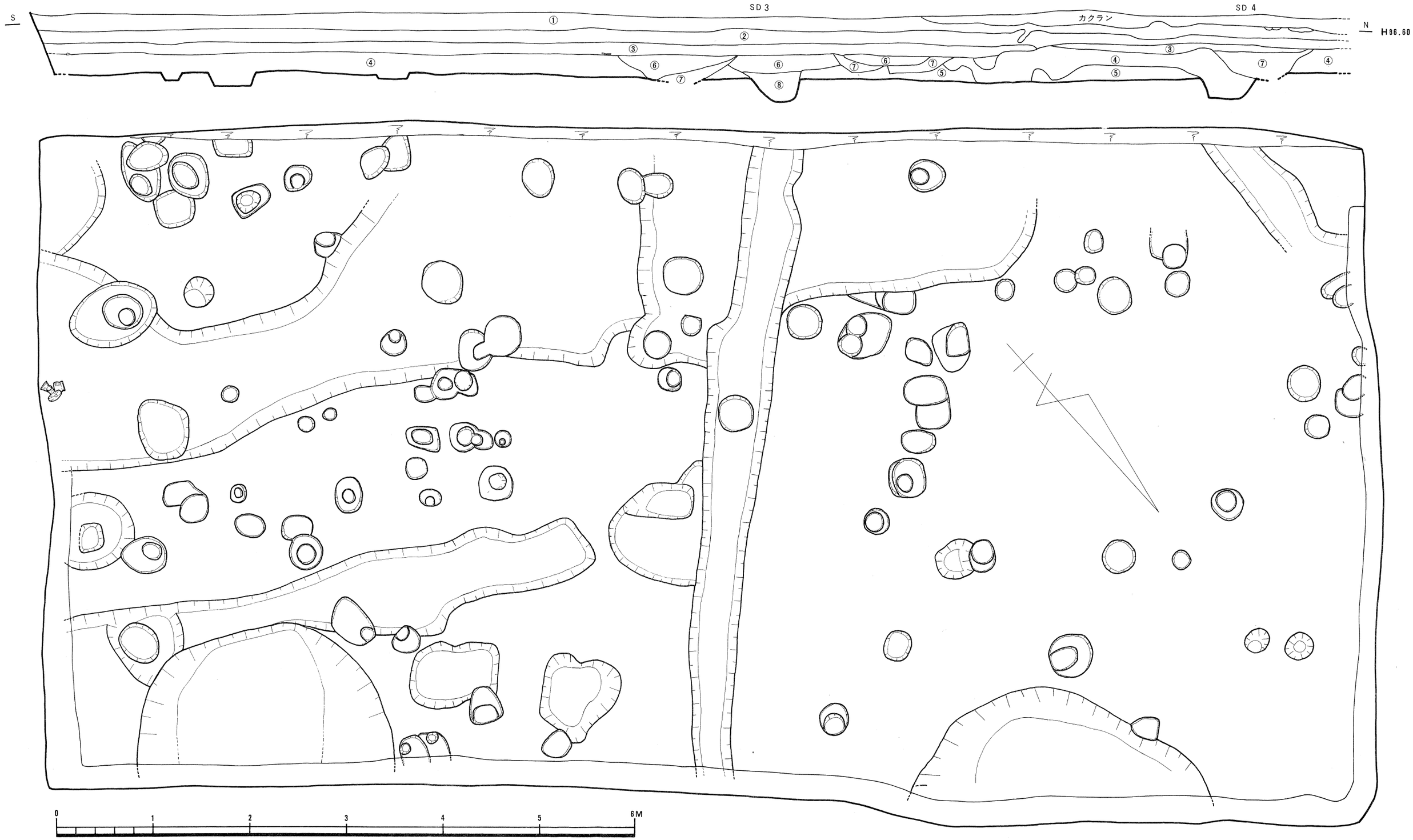
黒色土器（B 111～B 118），土錘（H 119）



1. 周辺地域出土土器（E 120～B 128）



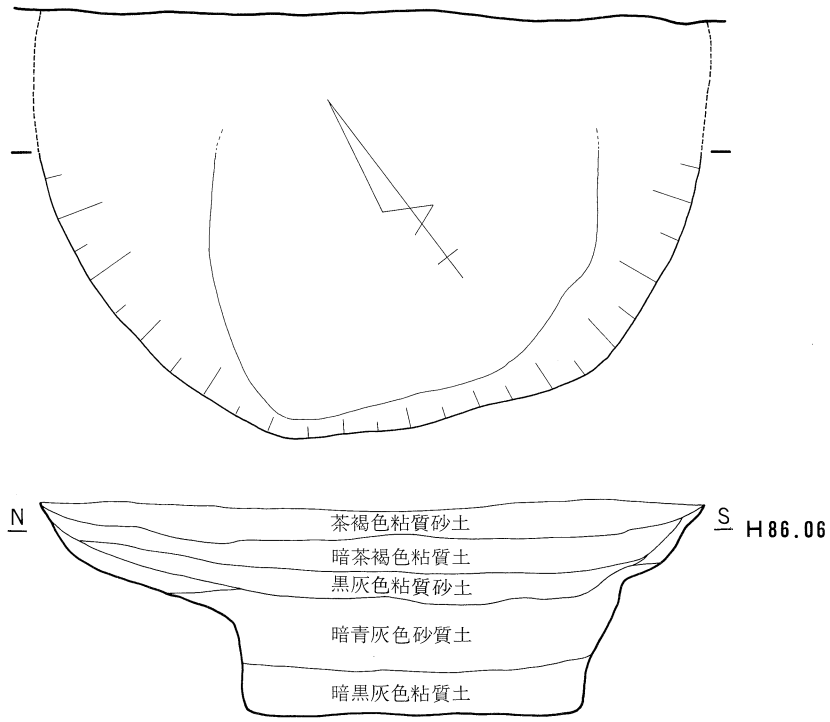
2. 周辺地域出土土器（B 129～C 135）



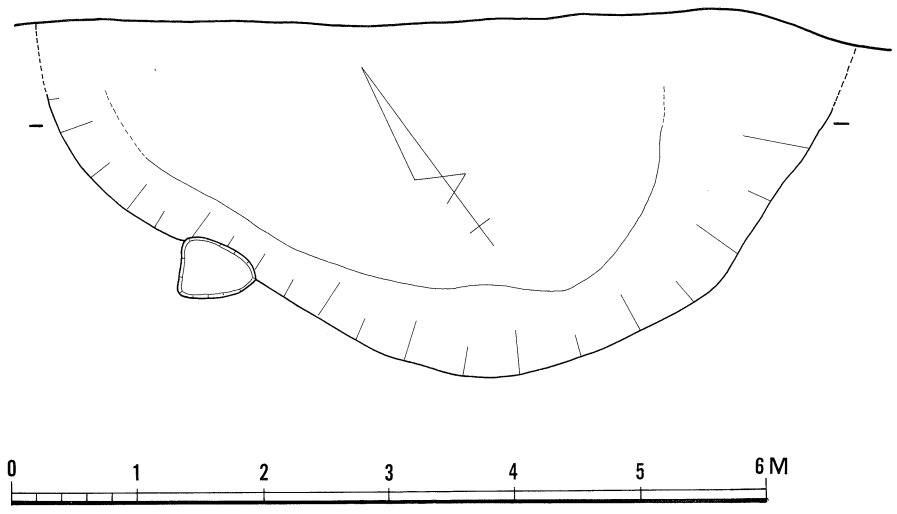
遺　構　全　図

①暗灰青色砂泥（耕土）
②黄灰褐色砂質粘土（床土）
③青灰色砂質粘土
④暗茶褐色砂質粘土
⑤淡黄褐色砂質粘土
⑥暗茶色砂質粘土
⑦暗灰褐色砂質粘土
⑧茶褐色砂質粘土

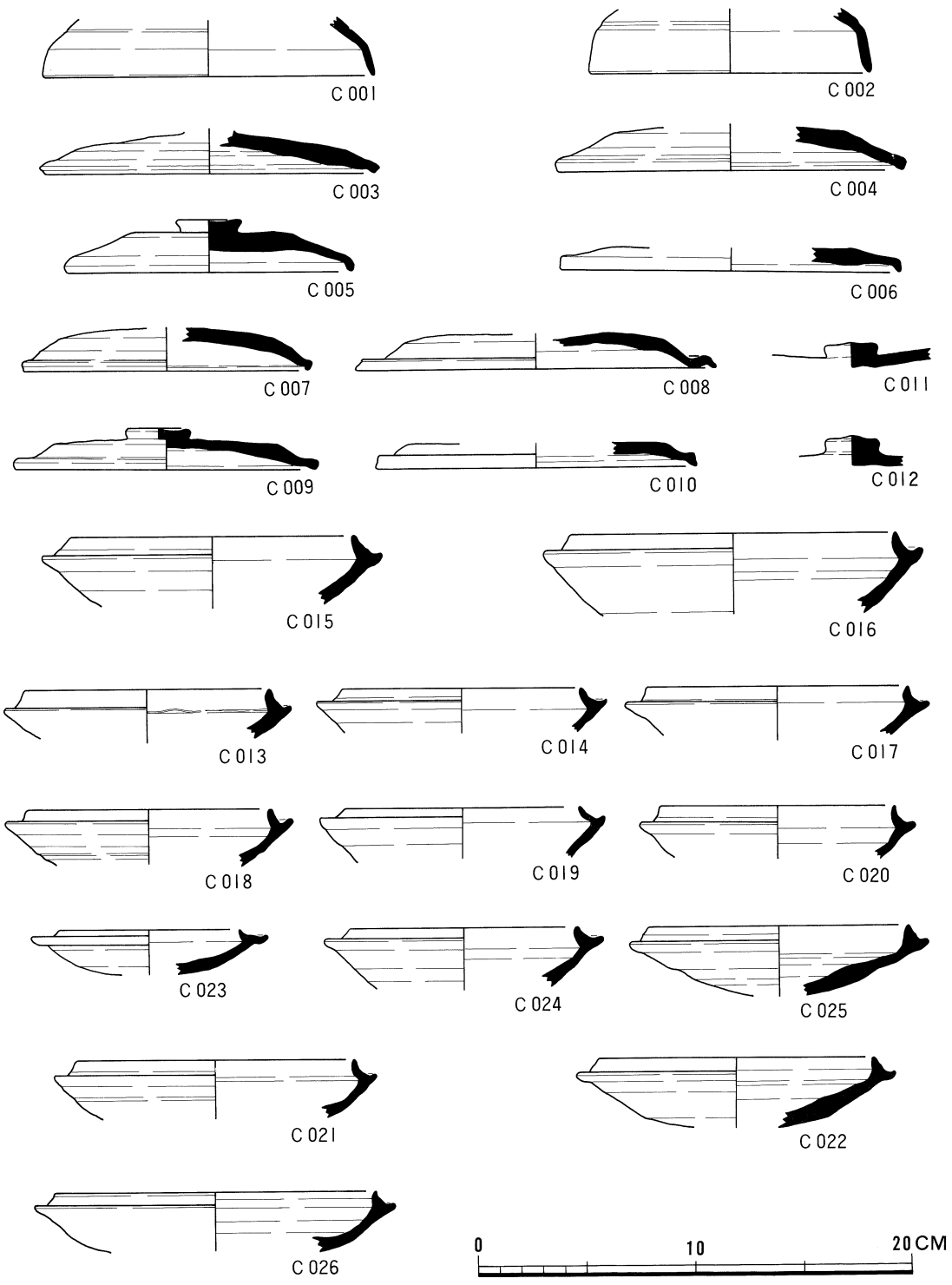
SE 1



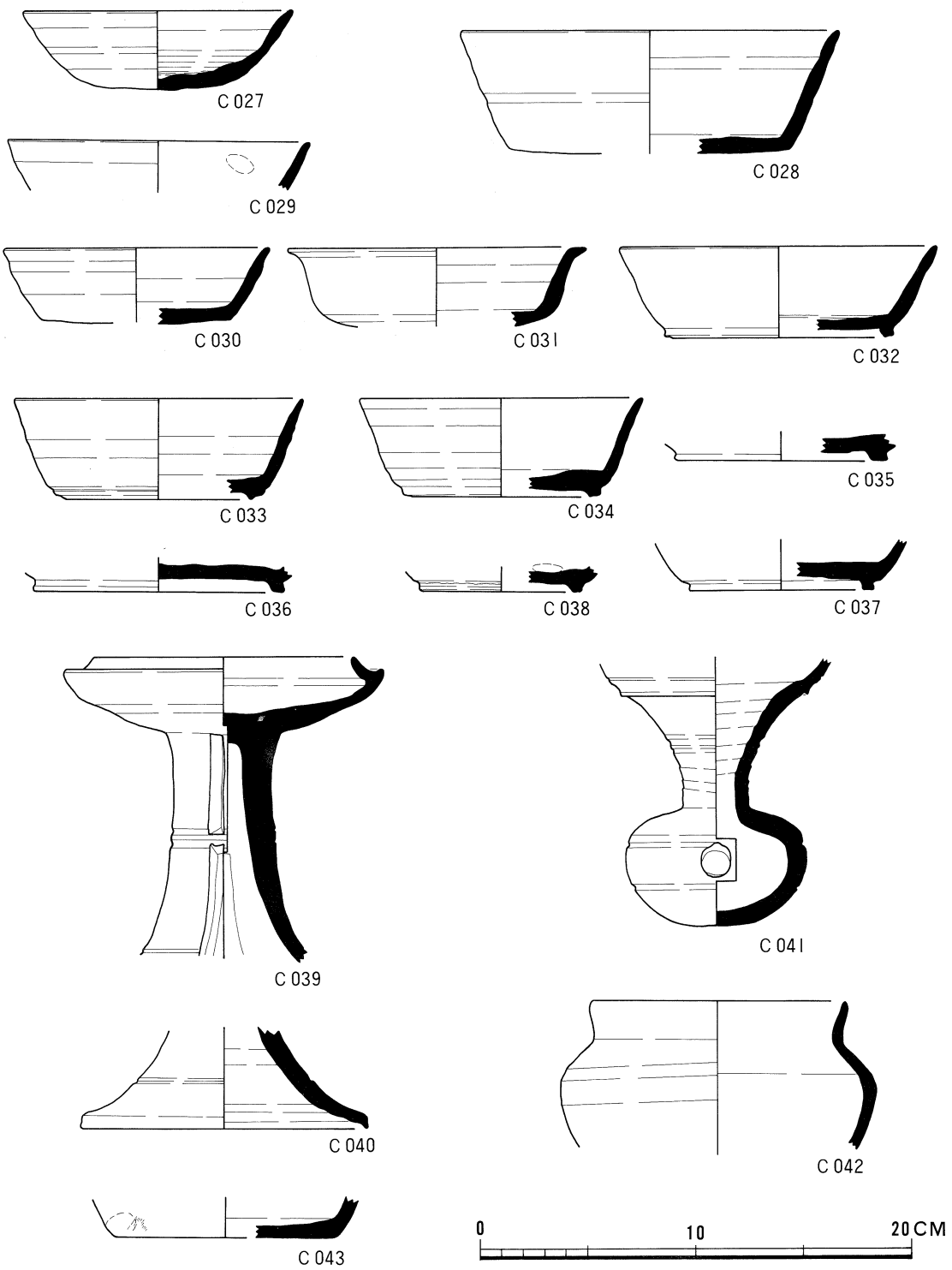
SE 2



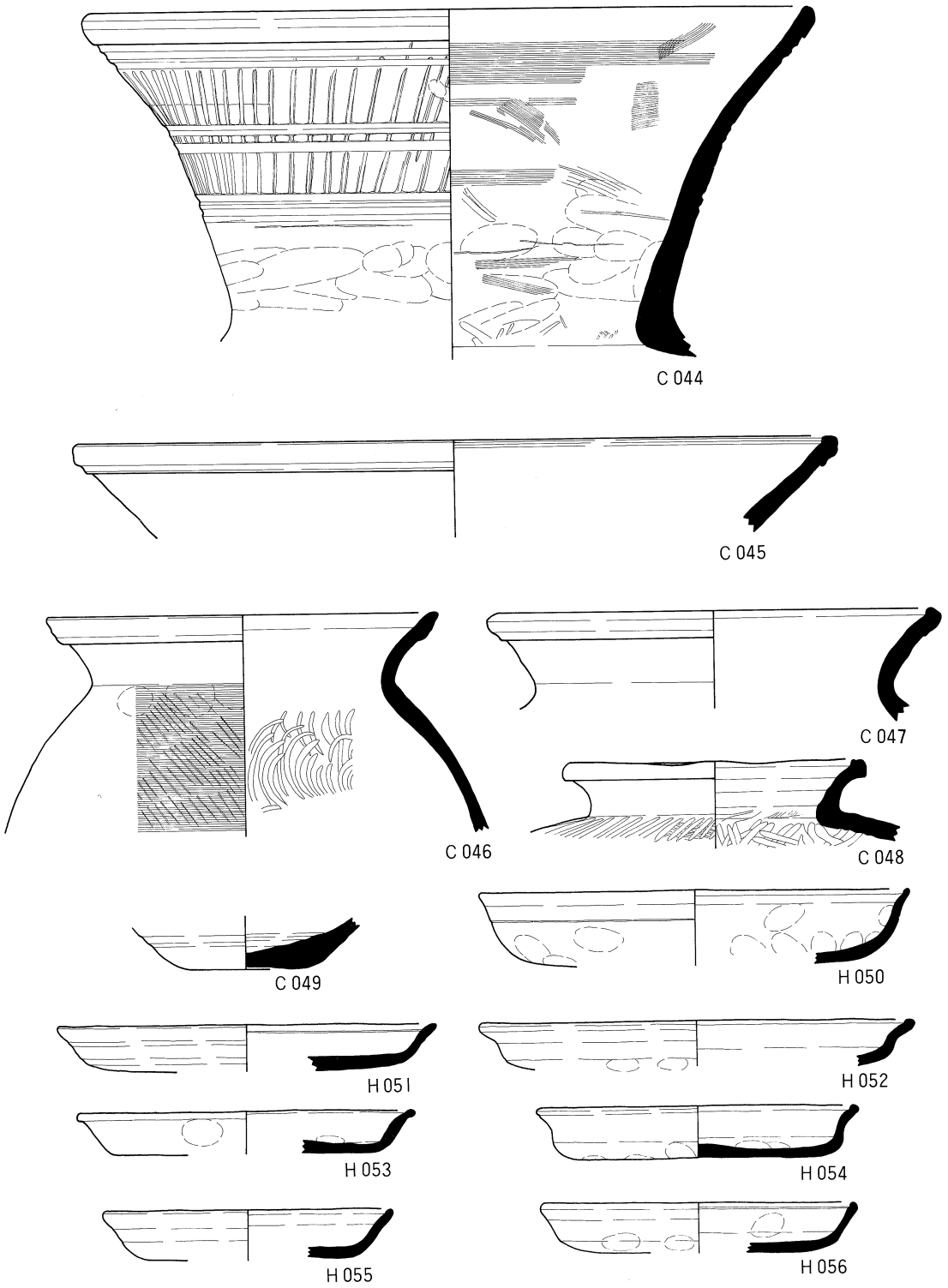
ＳＥ１・ＳＥ２平面・断面実測図



天神前遺跡出土土器　　須恵器(C001～C026)

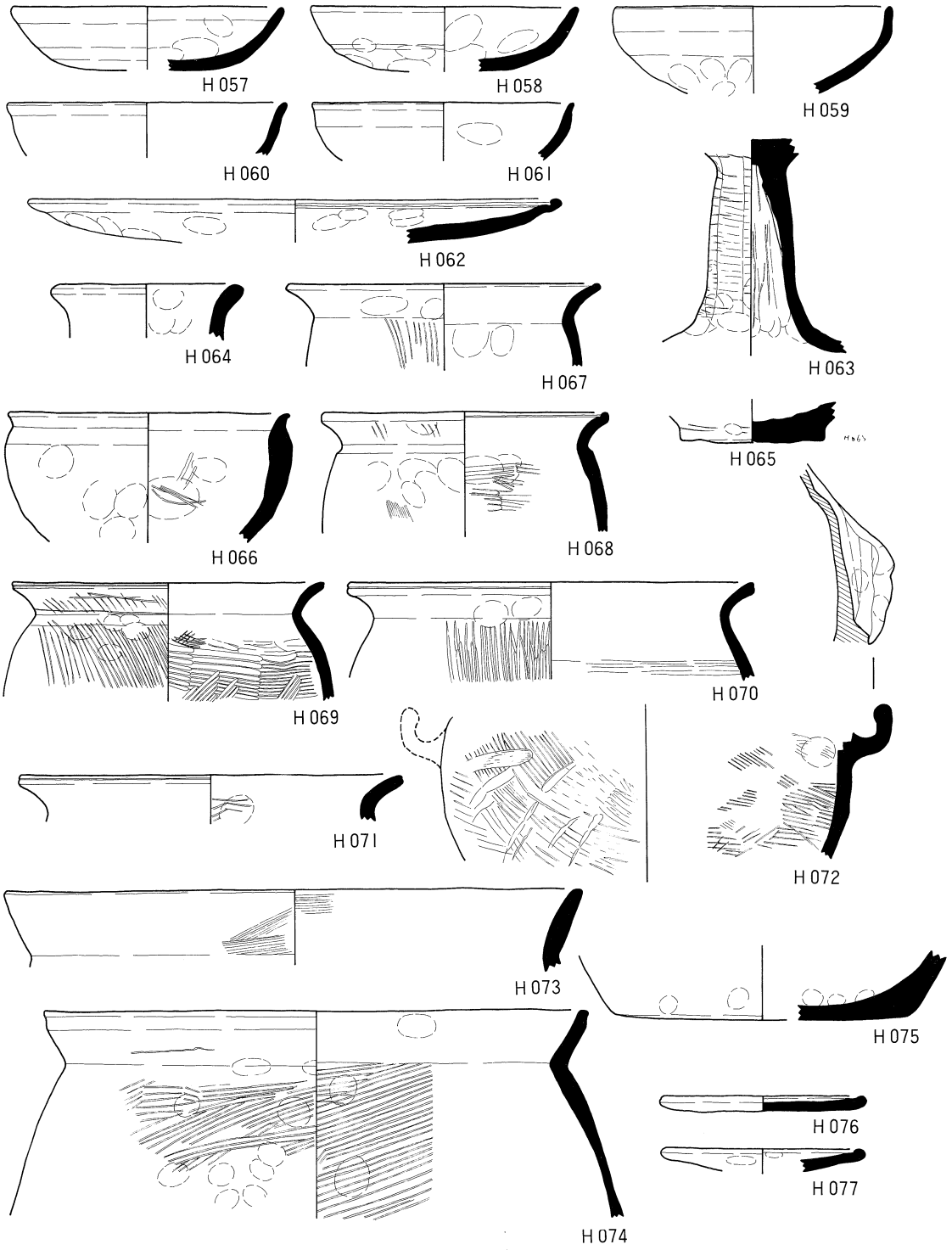


天神前遺跡出土土器　　須恵器(C027～C043)

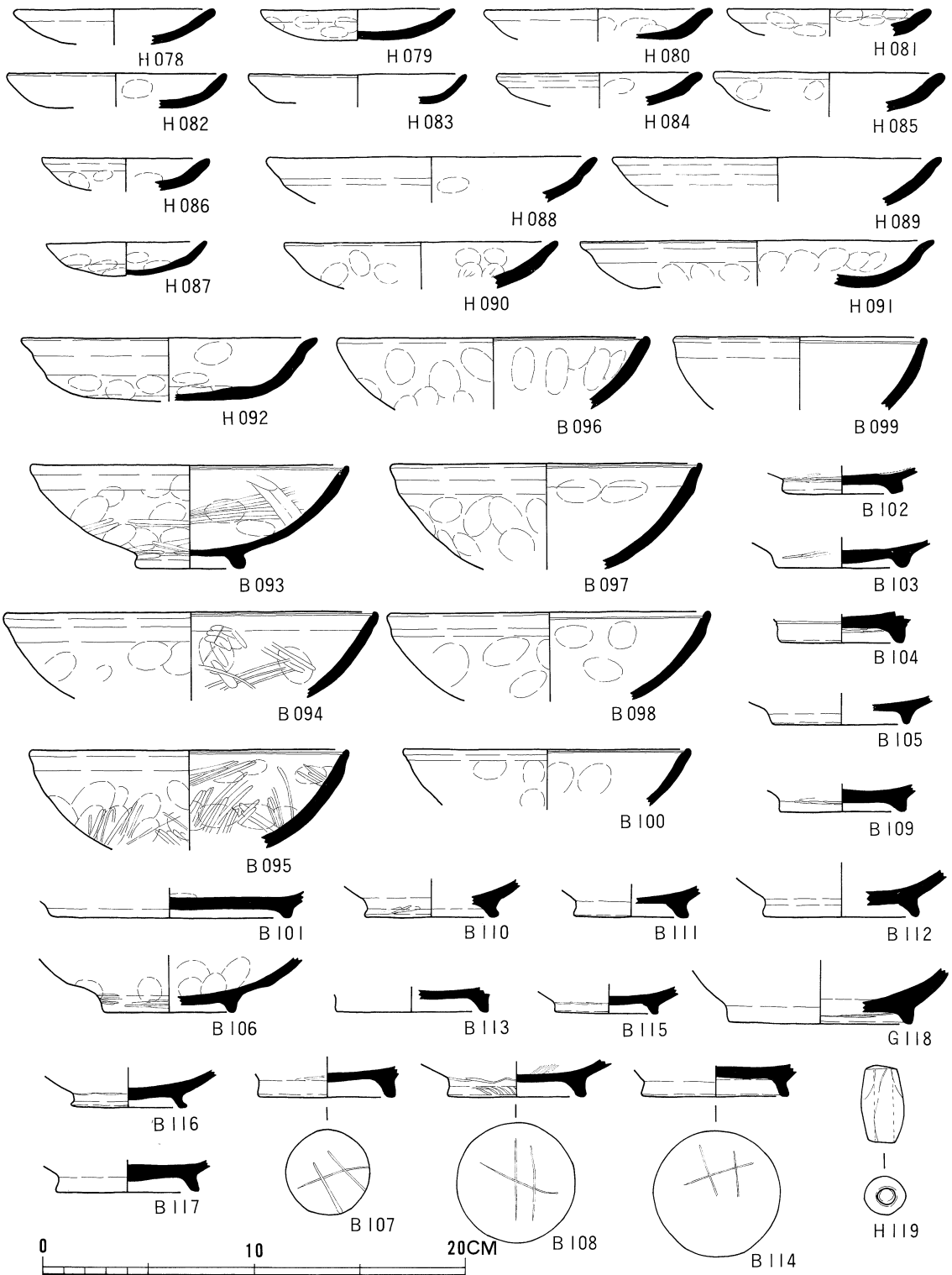


天神前遺跡出土土器

須恵器(C044～C049)
土師器(H050～H056)

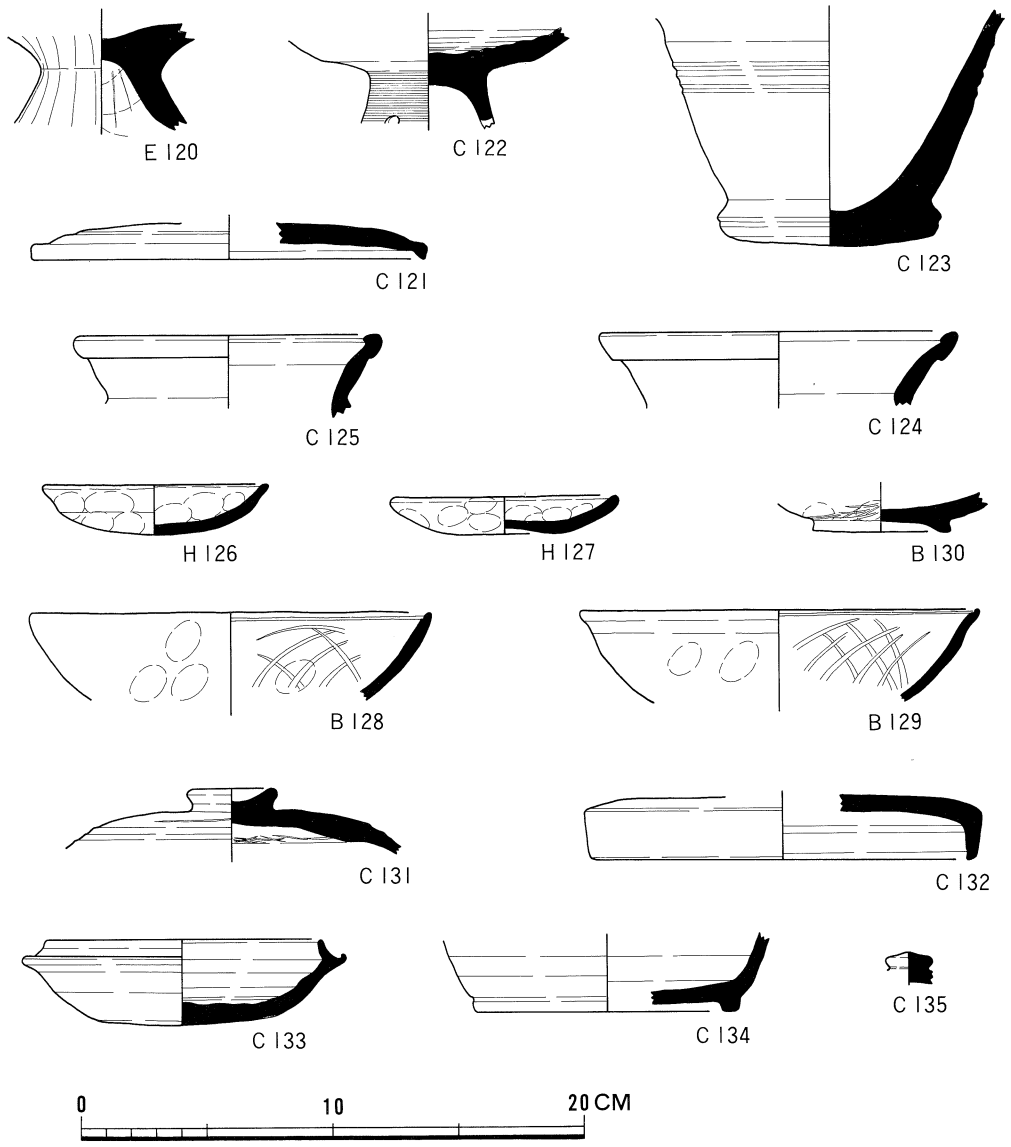


天神前遺跡出土土器　　土師器(H057～H077)



天神前遺跡出土土器

土 師 器(H078～H092) 緑釉(G118)
黒色土器(B093～B117) 土錘(H119)



周辺地域出土土器　木戸899.(E120) 木戸194.(C121～C125)
木戸906.(H126～C132) 八夫堂後(C133～C135)

湖南中部流域下水道関連遺跡
発掘調査報告書(虫生工区)
—木部天神前遺跡—

1979・3

編　集　滋賀県教育委員会
発　行　滋賀県教育委員会
　　(財)滋賀県文化財保護協会
印　刷　株式会社　中村太古舎